俺のクラスメイト二人が痛いんだが

カナリアP

【注意事項】

このＰＤＦファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にＰＤＦ化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でＰＤＦファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

東京都内にある普通の中学校。

そこでは二人の違う系統の厨二病を患った少女たちに懐かれた一人の少年がいた。

これは、その少年と少女たちの中身空っぽのメッセージ記録である。

新作「僕の幼なじみがバズーカを向けてくる」 停滞中

新作「きょうもキョウとてゲーム三昧」そろそろ書く

最新作「上京した元読モの幼馴染から性転換を勧められた」更新中

目次

少女たちと普通の一日 ―― 1
少女たちと趣味の話 ―― 6
少女たちと不機嫌な理由 ―― 13
少女と朝のひと時 ―― 19
少女と譲れない意思 ―― 23
少女たちの噂 ―― 27
少女たちと歌姫の宴 ―― 48
少女とグダッと　蘭子編 ―― 57
少女とグダッと　飛鳥編 ―― 61
４２期二年四組裏掲示板６２スレ目 ―― 66
少女たちと１４歳① ―― 79
少年少女たちの夏休み ―― 86
ＡＩは考えることをやめない ―― 92
少年少女はすれ違う ―― 96
カワイイ洗脳中（前編） ―― 102
最終回直前特別編　二年四組の学園祭 ―― 115
カラマス記念特別編　ギフト ―― 126
僕らについて（後編） ―― 131
Ｓｔａｎｄ　ｂｙ　ｍｅ ―― 139
Ｎｅｘｔ　ＳＴＡＧＥ！ ―― 150
後日談 ―― 159

少女たちと普通の一日

ブリュンヒルデ：煩わしい太陽ね！
ハル：おはよう、神崎
ハル：今日は学校に来るのか？
ブリュンヒルデ：神の試練は天高くアポロンが昇る時故
ブリュンヒルデ：それまでは下界に降りる運命である
ハル：今日は英語の小テストだぞ
ブリュンヒルデ：そに
ブリュンヒルデ：そのようなもの悠久なる果てに置いてきた
ブリュンヒルデ：叡智の僕よ
ブリュンヒルデ：我の呼び掛けに応じ、その魔道書を献上するがいい！
ハル：悪いがノートは見せないぞ
ブリュンヒルデ：いじわる
１／２のボク：やぁ
１／２のボク：おはよう

ハル：おはよう
ハル：今日は学校に来るのか？
1／2のボク：そのつもりだが
1／2のボク：ボクとしては義務教育での勉学に意味があるとは思えないが、まぁ教養を得ないと創作にもアイドル活動にも支障が出そうなんでね
1／2のボク：ま、暇つぶしがてらにと思ってね
ハル：学校を暇つぶしと言えるお前すげえな
1／2のボク：そうかな？
1／2のボク：時間は有限で、学校へと通える日々も一生のうちではほんの僅かな時間でしかない
1／2のボク：だとしたらそれを有意義なものとするのは当然のことだとボクは考えるけどね
ハル：終わった？
1／2のボク：最近少しボクの扱い雑じゃないかい？
ハル：分かってるなら自重しろよ

ブリュンヒルデ：我が従者よ

ブリュンヒルデ：我が魂の契約に従い貴様に使命を下す
ハル：なんだよ
ハル：授業中に送ってくんな
1／2のボク：そう言いながらスマホを弄っているキミがそれを言う権利はないと思うけどね
ブリュンヒルデ：定められし晩餐の予定だが
ブリュンヒルデ：我が調律者の命によりその時をずらす必要があるようだ
ブリュンヒルデ：ならば貴様も魔王の帰還を果たすまで待っていてくれるか？
ハル：ヤダ
1／2のボク：ばっさりだね
ハル：今日はカレーなんだよ
ハル：何が悲しくて神崎を待たなくちゃならんのだ
1／2のボク：おや、カレーか
1／2のボク：今日はボクはオフだ。ご相伴に預からせて貰ってもいいかい？
ハル：いいぞ
ブリュンヒルデ：いじわる!!!

ブリュンヒルデ：従者よ
ブリュンヒルデ：我が贄はまだ残っているか？
ハル：あるぞ
ハル：ついでに宿題も持ってこいよ
ハル：今二宮の見てるから丁度いい
ブリュンヒルデ：えー
ブリュンヒルデ：神の試練は極めて苦難であった
ブリュンヒルデ：我が強大な魔力を持ってしても補給を受けたところで
ハル：ならデザートはいらんな
1／2のボク：チーズケーキが美味しかったんだ
ブリュンヒルデ：月の魔力により我が漆黒の翼は羽ばたかん！
ハル：月出てないけどな
ブリュンヒルデ：言わないで!!

ブリュンヒルデ：闇に飲まれよ！
1／2のボク：あぁ、お疲れ様
1／2のボク：毎度のことながら、春川くんの扱きは容赦がないね

１／２のボク：まぁそのおかげでアイドルになってからも成績は落ちていないけどね
ブリュンヒルデ：我が叡智の従者の能力は絶大である
ブリュンヒルデ：それ故対価もそれ相応ではあるがな
１／２のボク：キミの、ではないけどね……
ブリュンヒルデ：？
１／２のボク：おやすみ、明日も頑張ろう
ブリュンヒルデ：深遠なる眠りを！

少女たちと趣味の話

１／２のボク：もう少し展開をゆっくりにして描写を丁寧にした方がいいかな？
ブリュンヒルデ：名も無き観衆の心を掴むためには神速も大事だが
ブリュンヒルデ：重き迫力で魅せることも要であろう
１／２のボク：ふむふむ
１／２のボク：なるほど、アドバイスありがとう
１／２のボク：やっぱりボクとキミの趣味は合うみたいだ
ブリュンヒルデ：我々は運命が交差し魂の共鳴を果たした同志
ブリュンヒルデ：久遠の絆は最果てに至ろうと不滅である！
ハル：なぁ
１／２のボク：おや？
１／２のボク：学校は終わったのかい
ブリュンヒルデ：闇に飲まれよ！
ハル：おう、お疲れ

ハル：そうそうお前らに聞きたいことがあるんだけどさ
１／２のボク：これは珍しい
ブリュンヒルデ：我が強大な魔力を借りたいか
ブリュンヒルデ：果たしてその叡智を持って制御できるか？
ハル：いや明日から休日じゃん？
１／２のボク：残念なことにボクはお仕事だけどね
ブリュンヒルデ：我は使命を経て魔力の補充のためしばしの休息である！
ハル：だからさ、暇だし何かＤＶＤでも借りようかとＴＳＵＴＡＹＡにいるんだけど
ハル：なんかオススメない？
１／２のボク：ＤＡＲＫＥＲ　ＴＨＡＮ　ＢＬＡＣＫ　―黒の契約者―
ブリュンヒルデ：ローゼンメイデン
１／２のボク：シュタインズゲート
ブリュンヒルデ：Ｆａｔｅ／ｓｔａｙ　ｎｉｇｈｔ
１／２のボク：攻殻機動隊
ブリュンヒルデ：とある魔術の禁書目録
ハル：多い多い
ハル：一作品でいいんだよ

ハル：しかも2時間くらいで見れるのでいいから
1／2のボク：だったらイヴの時間かスカイ・クロラだね
1／2のボク：どちらも世界観が独特で表現が素晴らしいんだ
1／2のボク：同じ理由でＧｈｏｓｔ　ｉｎ　ｔｈｅ　ｓｈｅｌｌ、そしてイノセンスもおすすめだよ
ハル：攻殻機動隊だったか？
ハル：それにするか
ブリュンヒルデ：ぐぬぬ……
ブリュンヒルデ：厨二病でも恋がしたい！
1／2のボク：なっ
ハル：あー…なんだっけそれ
ハル：京アニの奴だよな
ブリュンヒルデ：総集編もあるしオススメだよ！
ハル：口調崩れてるぞ
ハル：んーだったらそれも借りるか…
ブリュンヒルデ：我が封印されし神の教典を持ち合わせている
ブリュンヒルデ：従者と共に幕を見ても良いぞ！

１／２のボク：くっ
ハル：円盤持ってんのか
ハル：じゃあ
１／２のボク：待ちたまえ
ブリュンヒルデ：何奴!?
ハル：どうした二宮
１／２のボク：ボクは日曜はオフなんだ
１／２のボク：だからキミの時間が空いていたらでいいのだが
１／２のボク：映画でも見に行かないかい？
１／２のボク：見たい映画が
１／２のボク：あってね
ハル：日曜か
ハル：別に構わないけどお前一応アイドルだろ
ハル：良いのか
１／２のボク：きちんと変装はするし
１／２のボク：それにまだまだボクは観測されるには自身の存在を固められていない
１／２のボク：今のうちに

１／２のボク：友人と親交を深めるっていうのも良いじゃないか
ハル：良いなら良いけどよ
ハル：Ｐさんには確認取っておけよ
ハル：で、何が見たいんだ？
１／２のボク：打ち上げ花火、下から見るか、横から見るか
１／２のボク：だよ
ハル：あれか
ハル：でもあれってレビュー酷くなかったか？
１／２のボク：大衆の流れに逆行するのもたまには良いさ
ハル：ふぅん？
ハル：分かったよ、日曜な
ブリュンヒルデ：ズルい!!
ハル：今度はなんだ……
ブリュンヒルデ：我が従者よ！
ブリュンヒルデ：魂の契約に従い貴様に新たな使命を遣わす！
ブリュンヒルデ：外界へと赴き我を天界よりの灼熱の業火から漆黒の楯で守るのだ！
ハル：日傘くらい自分で持てよ

ブリュンヒルデ：むぅぅぅ!!!
ハル：分かった分かった
ハル：で、何しに行くんだよ
ブリュンヒルデ：遊戯なき世界など世界に非ず
ブリュンヒルデ：序曲の章、終焉たる景色での物語を
ハル：久しぶりに難解なの来たな……
ハル：ＬＩＮＥだと字幕が見えねえからなぁ
１／２のボク：ノーゲーム・ノーライフ　ゼロかな？
ハル：あぁあれか……といっても原作見てないんだが
ブリュンヒルデ：不要である！
ブリュンヒルデ：原典へと至る鎮魂歌の補足は我が承ろう
ハル：休日が休日じゃなくなってしまった……
１／２のボク：自業自得だと思うけどね
１／２のボク：キミは甘いのだから
ブリュンヒルデ：我が従者として当然の運命!!

ーーーーーー

「危ない……厨二病を見られるのだけは阻止できた」
「しかし二人で映画か……仲のいい男女でも、二人で行くというのはそのイメージはボクでもわかる」
「……服を選ばないと」

「……何故あそこまで心揺さぶられたのであろう」
「友と一緒に外界へと足を運ぶなどと……しかも春川くんと」
「……ドレスで行ったら、怒るかな」

少女たちと不機嫌な理由

ハル：マジか
ハル：嘘だろ
ハル：おい
ハル：やべえ
1／2のボク：語彙が死んでるよ
1／2のボク：珍しいねそこまで取り乱すなんて
ブリュンヒルデ：凶月の魔道士に心を操られたか！
ハル：かもしれな⁉⁉…
ブリュンヒルデ：⁉!!?!
1／2のボク：驚⁉!!?!た
1／2のボク：まさかのキミがそんなことを言うなんて
ハル：でもあの人はそんな禍々しいのじゃなくてだな……
1／2のボク：じゃあなんだい？
ハル：女神……かな

１／２のボク：は？
ブリュンヒルデ：何言ってるのこの人
ハル：女神って本当にいたんだな……
１／２のボク：そういうのいいから
１／２のボク：早く回想に入るといい
１／２のボク：今のボクはとても機嫌が良いから特別に聞こうじゃないか
ブリュンヒルデ：懐旧の旋律を拝聴しようではないか
ハル：いやさ
ハル：さっき本屋に行ったんだよ
ハル：欲しい漫画があってさ
ブリュンヒルデ：それは如何な魔道書【グリモア】か？
１／２のボク：そういうのは後にしてくれ
１／２のボク：続きを
ハル：そしたらさ
ハル：いたんだよ
１／２のボク：誰が？
ハル：ふみふみが!!!!!

１／２のボク：ふぅん
ブリュンヒルデ：ふむ
ハル：変装してたけどすぐに見抜けたね！
ハル：もうね、雰囲気がね
ハル：他の人と違うの
ハル：オーラみたいな？
ハル：思わず叫びそうになったけど
ハル：そういうのってやっぱ迷惑じゃん？
ハル：あっちもオフなんだろうしさ
１／２のボク：そうだね
ブリュンヒルデ：であるな
ハル：でもやっぱり気になっちゃってさ
ハル：漫画のこととか忘れてよく分からん棚の本を選ぶフリしてチラチラ見ちゃったんだよ
１／２のボク：不審者だね
１／２のボク：それも相当な重症だ
ブリュンヒルデ：我が王国の騎士団に通達せねばならぬか

ハル：そしたらあっちも気づいたみたいでさ！
ハル：困ったように笑って、人差し指を口元に添えて
ハル：言わないでくださいね？的なニュアンスのジェスチャーをしたんだよ！
ハル：女神かよ!!
１／２のボク：蘭子、明日のレッスンって何時からだったかな
ブリュンヒルデ：ヒュドラを召喚せし刻限である
１／２のボク：なら９時くらいキミの部屋へ行こう
ブリュンヒルデ：承知した
ハル：話聞けよおおおおおおお!!!
１／２のボク：聞いてただろう
１／２のボク：何か不満でもあるのかい？
ハル：何か反応があってくれても良いだろ
１／２のボク：そうか
１／２のボク：悪いがボクたちは同じ事務所だからかなりの頻度で会っていてね
１／２のボク：どういう感想を言ったら良いか分からないな
１／２のボク：素直にキモいと罵倒すれば満足してくれるのかな
ハル：辛辣過ぎない？

ブリュンヒルデ：汝の胸に言霊は深く突き刺さるであろう！
1／2のボク：まぁ春川くんが文香さんを推しているのは知っていたけれど
1／2のボク：ああいう人が好みなのかい？
ハル：そうだな
ハル：上手く言葉にできないけど……ああいう大人しめな人が好みなのかもな
1／2のボク：ふぅん
ブリュンヒルデ：そう
ハル：なんだよ
ハル：なんか凄まじく恥ずかしいことを言った気がする
1／2のボク：そろそろ寝る時間だ
1／2のボク：悪いがボクはもう寝させてもらうよ
ブリュンヒルデ：闇に飲まれよ
ハル：え、なに？
ハル：なんでそんな唐突に
ハル：神崎とかいつもの！はどうした
ハル：おいってば
ハル：おーい！

ーーー
「……大人気なかったかな」
「でも、さすがにこれは彼がデリカシーがないというか、無神経な気がするけれど」
「……」

「うぅぅ……バカバカバカ」
「大人しめな人……」
「……深淵を纏いし闇の衣を着飾ってみる、とか」
ーーー

1／2のボク：おやすみなさい
ブリュンヒルデ：おやすみなさい

少女と朝のひと時

ぼうっとした意識が耳障りな音で強制的に覚醒する。
嫌だ、起きたくないーーと思うのは人間として当然の摂理で、惰眠を貪りたいということはそこまで罪だろうか。
……そういえば怠惰は大罪だったと、少し微笑む。
無駄な思考ができるくらいには頭は再起動を終え、この音がどういう意味を示しているかをようやく思い出した。
愛用しているスマホを片手に、画面に映し出されている名前を見て少しみっともなく笑みが溢れながらーーボクは彼と繋がり始める。

「ーーおはよう、約束は守ってくれたんだね」
『まぁな。それと、おはよう。大阪はどうだ?』
「人が多いね、向こうほどじゃないけど、こちらのが体感、少し騒がしい」
『ふぅん……今日はライブでいるんだろ?　モーニングコールを頼むほどなんだし、

クマとか作ってないだろうな』
「抜かりはないよ、ちゃんと健康は管理している。アイドルは色んなことを気をつけなくちゃいけないから」
　そっか、と素っ気なく応対する彼だが、先ほどのは心配してくれたのだろうと一人想像、いやこれは妄想かな？
「そっちはどうだい。日常はお変わりなく？」
『そうだな。神崎はいつも通りだと思うし、特に何もない。ていうか一日二日で何も変わるわけないだろ』
「そりゃあそうだね。十何年も変わらないんだから」
　いや、少し変わったかもしれない。
　アイドルになったことも。
　いま彼と話していることも。
『まぁ明日には帰ってくるんだろ？　お土産、楽しみにしてるからな』
「ふむ、残念ながらボクは家族にしかお土産を買ったことがなくてね。どんなものが嬉しいか是非とも参考までに聞かせてもらおう」
『大阪か……そうだなーーあ』
「うん？」

『ふみふみのライブ限定グッズを』
切った。
さぁ、今日は張り切っていこう。
ボクという存在を、大衆に解き放つんだ。

ーーー
ハル：お土産な、そうだな
ハル：だったら衣装姿の写真くれ
ハル：お前のライブ記念に欲しい
1／2のボク：キミさ、今とんでもなく変態チックなこと言ってるの分かってるかい？
1／2のボク：同級生の露出の少し多い服姿が欲しいって本人に言ってるんだよ？
1／2のボク：はっきり言って普通ならドン引きするところさ
ハル：いいだろ二宮は普通じゃないんだから
ハル：それにたまにはお前がアイドルだってことを覚えておかないとな
1／2のボク：……キミ、未だにボクらをアイドル扱いしてないからね
1／2のボク：まぁ、そこが気楽なんだけどさ

1／2のボク：良いだろう、自撮りは趣味じゃないがせいぜい大切にしてくれ

1／2のボク　　さんが写真を投稿しました

ハル：ライブ、頑張れよ

1／2のボク：キミを魅せられないことを残念に思うほどにね

1／2のボク：会場に来てるなら先に言ってくれ!!!!

ハル：俺は一言も大阪にいないとは言ってないぞ^^

少女と譲れない意思

黄金劇場〜終止符の指輪〜

此度は多種多様なる異界の同種たちが集う場にて、我が従者と共に劇場へと足を運んだ。

灼熱の業火と様々な魔力に当てられ我の力が思惑通りに動かせぬことが気がかりであったが、従者はいち早くそれに気付くとすぐさま盾となり魔力の補給として、禁断の実を絞ったポーションを練金し、我へと献上してくれた。

そのおかげで十全な状態でメモリアルを取り込めるというもの。とても感謝している。

今回のメモリアルは、我も興じている無戯無生（ノーゲーム・ノーライフ）。その序章として語られる言わば零の物語だ。先駆者によるところ凄まじく強大かつ精巧な造りのため我も久々に胸踊っていた。

劇場内は未だに熱冷めぬのか我と同じ異界の者たちが集っていた。ざわめきにより、従者は我の耳触りにならぬかと眉をひそめていたが、始まって仕舞えば皆はすぐに虜と

なり我も気兼ねなくメモリアルに集中することができた。
内容についてはあえて語らぬ。自身の心眼で是非定めて欲しい。
我の評価は星１０のところー星１５だ！
従者もそのメモリアルに魅了された様で我も満足である。
では、今宵もアルテミスの愛と共に深遠なる眠りに着くとしよう。

ーーー
ハル：神崎、あのさ
ブリュンヒルデ：何用だ？
ハル：いやブログ見たんだけどあの記事内容はちょっとどうかと思ってな
ブリュンヒルデ：!?
ブリュンヒルデ：ふとの
ブリュンヒルデ：人の日記を勝手にみんａｉｄｅ!!!!
ブリュンヒルデ：見ないで!!!
ハル：いや公開してんだからそれは言えないだろ
ハル：じゃなくて、あの内容だとどうにもなんかデートしましたって書かれてる気がしてな

ブリュンヒルデ：ｂｓかな
ブリュンヒルデ：ばかんさ
ハル：落ち着け
ブリュンヒルデ：莫迦な！
ハル：いや分かってるんだが、どうにも従者っていうと他のアイドルのこととは捉えられないし
ハル：お前プロデューサーのことは調律者って言ってるんだよな
ブリュンヒルデ：従者は従者であり眷属である我が僕であろう
ブリュンヒルデ：何の問題がある
ハル：大有りだろ
ハル：アイドルが男と二人で映画なんてさ
ハル：だからってわけじゃないけど邪推されてもアレだし
ブリュンヒルデ：邪推？
ハル：あー
ハル：アイドルのファンってそこらへん厳しいだろ？
ハル：俺はお前の邪魔はしたくないんだよ

ハル…?
ハル…神崎?
ブリュンヒルデ…分かった
ブリュンヒルデ…直す
ハル…あ、あぁ…同胞とか仲間とかにしといてくれ

ハル…誰が注釈に俺のことを書けと言った!
ブリュンヒルデ…知らない!!

少女たちの噂

１１０：魔王軍親衛隊　２０１７／８／２９　１１：３３：３８　ＩＤ：１Ｚ２Ｈｙ３ｃｃｓｃ

最近ダークイルミネイトもテレビに結構出てきたよな

１１１：魔王軍親衛隊　２０１７／８／２９　１１：３８：４９　ＩＤ：８ＥｘＴＬｆｐｋｉｋ

今夜２０時の歌番組にも出るぞ

１１２：魔王軍親衛隊　２０１７／８／２９　１１：４２：０８　ＩＤ：ａＢＴＳＬ８ｐｂＤｖ

絶対見る

１１３：魔王軍親衛隊　２０１７／８／２９　１１：４５：５８　ＩＤ：４ｅ６ＦＢＲ５６ｏＦ

残業死ね会社死ね

１１４：魔王軍親衛隊　２０１７／８／２９　１１：４９：０７　ＩＤ：ｐ４ＤＵＮ

ｓＫｂ５Ｉ
＞＞１１３
副業にうつつを抜かすとかｗｗｗ
俺らは親衛隊やぞ
１１５：魔王軍親衛隊　２０１７／８／２９　１１：５４：４３　ＩＤ：ｙＲＬＦＢｑＵＡＥ５
ワイ親衛隊
日課のコール練習２０セット終了
良い仕事をした日は飯がうまい
１１６：魔王軍親衛隊　２０１７／８／２９　１１：５８：１８　ＩＤ：Ｆ５ｈ２ｅｆＰＷＯＴ
ハロワに行け
１１７：魔王軍親衛隊　２０１７／８／２９　１２：０１：５９　ＩＤ：ＨｍｚＢＶＴ２２ａｆ
最近飛鳥様が笑うこと多くて俺氏にっこり……
１１８：魔王軍親衛隊　２０１７／８／２９　１２：０６：４０　ＩＤ：ｏＤ５ｏＰＷｊＩｐｘ

>>117
こいつ……死んでるじゃねえか！
119：魔王軍親衛隊　2017／8／29　12：11：09　ID：c06Yk0MidY
>>117
またソウルジェム落としたのか!!
120：魔王軍親衛隊　2017／8／29　12：15：17　ID：x3cnojmIYX
でも分かる最初期の方はほとんど笑ってないもんな
その時のも好きだけど今はもっと好きだわ
121：魔王軍親衛隊　2017／8／29　12：19：32　ID：SOw7dbexMq
禿同
122：魔王軍親衛隊　2017／8／29　12：22：46　ID：1NbxH029Yn
俺氏超レア表情見たことあるわ
123：魔王軍親衛隊　2017／8／29　12：28：42　ID：3d2DX

k8kMo
>>122
kwsk
124：魔王軍親衛隊　2017／8／29　12：32：57　ID：TIAk0ZpyTr
>>122
あく
125：魔王軍親衛隊　2017／8／29　12：38：34　ID：HAQP8duEVW
>>122
どんな表情だよ
126：魔王軍親衛隊　2017／8／29　12：42：53　ID：1NbxH029Yn
前回のライブの途中でこっちの方見たときにすごいギョッとした感じの顔したんだよ。なんていうか「なんでいるの!?」みたいな
んで俺のことかと思ったんだけどどうやら俺の隣のやつ見てそうなったらしくてさ
127：魔王軍親衛隊　2017／8／29　12：48：20　ID：ITlsE

xPe3D
>>126お前のわけねーだろカス分を弁えろ
128：魔王軍親衛隊　2017／8／29　12：53：13　ID：1NbxH0
29Yn
>>127酷い（´；ω；｀）
129：魔王軍親衛隊　2017／8／29　12：58：37　ID：ITlsExPe3D
>>128言い過ぎたごめん
130：魔王軍親衛隊　2017／8／29　13：01：51　ID：1NbxH029Yn
>>129いいよ
131：魔王軍親衛隊　2017／8／29　13：05：51　ID：sEDDVJTVSh
優しい世界
132：魔王軍親衛隊　2017／8／29　13：10：26　ID：b3GqtEJTWF
んでそいつどんな奴だったん

１３３：魔王軍親衛隊　２０１７／８／２９　１３：１４：１３　ＩＤ：１ＮｂｘＨ０２９Ｙｎ
>>１３２コミュ障だから顔見てない。でもうちわが変な感じだった
「１／２の僕」だった気がする
１３４：魔王軍親衛隊　２０１７／８／２９　１３：２０：０５　ＩＤ：ｗＦｒｃＢｔＲＦ３Ｎ
なにそれ厨二病か？
１３５：魔王軍親衛隊　２０１７／８／２９　１３：２４：５６　ＩＤ：ＰｖｆｖＱＧＶＢｐｗ
厨二病にしても意味分からんな
１３６：魔王軍親衛隊　２０１７／８／２９　１３：２９：４４　ＩＤ：０ＶＣＤＢＴＰＨＩｊ
厨二病の俺でも解読できないレベル
１３７：魔王軍親衛隊　２０１７／８／２９　１３：３３：４０　ＩＤ：３ａｌＨｔＩ９ＬＹｆ
>>１３６このスレには厨二病しか存在しない定期
１３８：魔王軍親衛隊　２０１７／８／２９　１３：３７：１６　ＩＤ：１ＮｂｘＨ

０２９Ｙｎ
　それからなんだけどさすっごく飛鳥様口元がニヤつきながらそいつのことチラチラ見てた
　めっちゃ可愛かったけど裏山死刑
１３９：魔王軍親衛隊　２０１７／８／２９　１３：４１：０８　ＩＤ：ｒｍｙＤＳＱＲｔＷＷ
　飛鳥ちゃんのニヤケ顔見れたお前も裏山死刑
１４０：魔王軍親衛隊　２０１７／８／２９　１３：４４：５９　ＩＤ：ＡｎｉｔａｗｂＺＫｌ
　なにそれめっちゃ見たい
１４１：魔王軍親衛隊　２０１７／８／２９　１３：４８：０３　ＩＤ：ｍＷＬｑ６ＳＬｋＬＴ
　死んでもいい
１４２：魔王軍親衛隊　２０１７／８／２９　１３：５３：４７　ＩＤ：ｈｚｅｗＯｐＷＷａｘ
　ちょっと待ってそれもしかしてさ
　叡智の魔道士じゃね？

143：魔王軍親衛隊　2017／8／29　13：57：59　ID：zCAqxkdREr
世界の謎がまた一つ解かれたか……
144：魔王軍親衛隊　2017／8／29　14：03：25　ID：iI4KOS9ppG
リアルに鳥肌たったわ
145：魔王軍親衛隊　2017／8／29　14：06：50　ID：5yAOMzeyON
魔王の右腕だと……
146：魔王軍親衛隊　2017／8／29　14：12：44　ID：T4DtfSWjvP
>>145
混同してんぞ
147：魔王軍親衛隊　2017／8／29　14：16：51　ID：B49wdPp0TI
>>145
魔王の側近または闇の姫騎士の右腕な

１４８：魔王軍親衛隊　２０１７／８／２９　１４：２２：２８　ＩＤ：ｏＤｅＬｓＡｓＦＹＣ
そういや魔道士ってダークイルミネイト二人と仲良いんだっけ
１４９：魔王軍親衛隊　２０１７／８／２９　１４：２７：４４　ＩＤ：８ＬＰａｎＣｑｚＢｏ
同じ中学って聞いたことある
１５０：魔王軍親衛隊　２０１７／８／２９　１４：３３：０２　ＩＤ：ＷＮｕｌｉｕＫＷ８４
男か女か、それが問題だ
１５１：魔王軍親衛隊　２０１７／８／２９　１４：３８：４８　ＩＤ：ｊｒｌＯｕＧＡＳＲｑ
＞＞１５０女であるのが一番だけど男でもあの二人と付き合えるって純粋に凄いと思う
１５２：魔王軍親衛隊　２０１７／８／２９　１４：４２：１４　ＩＤ：４ｂＹＩＤｍｗｖＬ４
俺らでもたまに二人の言ってることがわかんねー時あるもんな
１５３：魔王軍親衛隊　２０１７／８／２９　１４：４７：５７　ＩＤ：９ｌｉｃｆ

eYqox
テレビに出る神崎語は全て魔道士の翻訳説すこ
１５４：魔王軍親衛隊　２０１７／８／２９　１４：５３：１９　ＩＤ：ｂ７ＮｔＳｊＡＡｒｎ
闇の姫騎士の右腕ってことは左腕右足左足そして頭があるってこと……？
１５５：魔王軍親衛隊　２０１７／８／２９　１４：５８：００　ＩＤ：ＡＤｐＤ６ＰｋＣｆＣ
＞＞１５４蘭子ちゃんはエグゾディアだった……？
１５６：魔王軍親衛隊　２０１７／８／２９　１５：０１：３２　ＩＤ：Ｒｔｘｖ４ｗｃ４５ｅ
＞＞１５５本人喜びそうで草
１５７：魔王軍親衛隊　２０１７／８／２９　１５：０７：０８　ＩＤ：ｓＧＶＢｇｋ０ｓＱＲ
叡智の魔道士なのに右腕とは一体……ウゴゴ
１５８：魔王軍親衛隊　２０１７／８／２９　１５：１１：４６　ＩＤ：５ｚ９ＵＰ２６ａｎＸ
＞＞１５７つまり魔道士は頭と右腕二つの役割を果たす……？

159：魔王軍親衛隊　2017／8／29　15：17：25　ID：tFIKLs7WRy
>>158もうチートや、チーターやろそんなん！
160：魔王軍親衛隊　2017／8／29　15：22：12　ID：WqqC50UF08
蘭子ちゃんブログで魔道士のこと書いとる時ニッコニコやもんな（妄想
161：魔王軍親衛隊　2017／8／29　15：25：18　ID：7zBPK38GFO
>>160実際その通りそうなのが目に見える
162：魔王軍親衛隊　2017／8／29　15：29：28　ID：C4G5mWgWQS
話戻すけどじゃあ飛鳥様のライブに来たの魔道士ってことでFA？
163：魔王軍親衛隊　2017／8／29　15：32：42　ID：5yYyoInFSI
だとしたら納得する知り合いいたらそらニヤけるわ
164：魔王軍親衛隊　2017／8／29　15：38：38　ID：PtXbjrtASk

そんな顔はしていない
１６５：魔王軍親衛隊　２０１７／８／２９　１５：４１：５４　ＩＤ：ｒｎＫ０Ｐｔ
ＴｑＯＭ
ノーコメントで
・・・
・
３４１：魔王軍親衛隊　２０１７／８／３０　４：５５：５４　ＩＤ：Ｗ３ｒｌＡＺｌＭＧｒ
蘭子ちゃんのおかげで無事に厨二病になりました！
３４２：魔王軍親衛隊　２０１７／８／３０　４：５９：４５　ＩＤ：ｇａｎｃｂｒ６ｌＴｒ
飛鳥様のおかげで厨二病に目覚めました
３４３：魔王軍親衛隊　２０１７／８／３０　５：０５：３４　ＩＤ：ＨｂｇｅｗＬｈＤｃＩ
二人のおかげで厨二病再発した詫びにもっと歌ってくれ

344：魔王軍親衛隊　2017／8／30　5：10：21　ID：NAwGyrp8dQ

>>341―343
パンデミックかな？

345：魔王軍親衛隊　2017／8／30　5：13：58　ID：RcWnh0xw6H

>>341―343
ミーム汚染か

346：魔王軍親衛隊　2017／8／30　5：19：41　ID：EslhJlLgjA

>>345
二人はSCPだった……？

347：魔王軍親衛隊　2017／8／30　5：23：47　ID：7aJjlWtnpU

2人がSCPだったらどんなんだろ

348：魔王軍親衛隊　2017／8／30　5：29：33　ID：UORQ0o4uxr

２人ともｓａｆｅやろ
３４９：魔王軍親衛隊　２０１７／８／３０　５：３４：４３　ＩＤ：ａｏＯｉＹ９
ＢｋＰＪ
ｋｅｔｅｒやぞ誰にも止められんレベルや
３５０：魔王軍親衛隊　２０１７／８／３０　５：３８：５６　ＩＤ：ｙＧＴＫｌＣ
ｅｓＺａ
これが蘭子ちゃんの収容プロトコルだ！←
３５１：魔王軍親衛隊　２０１７／８／３０　５：４０：０２　ＩＤ：ＨＡＬ９Ｅ３
ｔｓＨ３
ブリュンヒルデ
ＳＣＰ―４０８―ＪＰ
オブジェクトクラス：ｓａｆｅ
特別収容プロトコル：ＳＣＰ―４０８―ＪＰは住居として用意された標準的なクラスＢの居室に住んでいます。常に黒いゴスロリまたはそれに準じた服装を着させ、部屋にはパソコンとテレビゲーム及び漫画や小説などの娯楽を配備させましょう。彼女が歌を歌う時は必ず指示通りの色のマイクを用意し思い通りに歌わせます。自作小説及び漫画及びポエムを見せられた際には褒めるか流すかしましょう。決して非難しない

ように。凄くムクれます。自作衣装を描いた際には作ってあげるととても喜びます。

３５２：魔王軍親衛隊　２０１７／８／３０　５：４７：４２　ＩＤ：ＶＺＵｙｄ７ＨＶＺｄ

＞＞３５１下に任すなよｗｗｗって速くね？

３５３：魔王軍親衛隊　２０１７／８／３０　５：５３：２９　ＩＤ：Ｔｏ４ｑＴ０ｌＷｈＣ

＞＞３５１なんだこいつｗｗｗ

３５４：魔王軍親衛隊　２０１７／８／３０　５：５９：１２　ＩＤ：ｒｎＫ０ＰｔＴｑ０Ｍ

＞＞３５１違うもん

３５５：魔王軍親衛隊　２０１７／８／３０　６：０２：５１　ＩＤ：２ｐ７ＸｗｅＥｚｚＪ

＞＞３５１こいつもしかして魔道士じゃねｗｗｗｗ

３５６：魔王軍親衛隊　２０１７／８／３０　６：０７：２５　ＩＤ：ＪＷｔｗＢＤＩｈｚＫ

＞＞３５５ねーよって言いたいけどなんか納得するわｗｗｗｗ

３５７：魔王軍親衛隊　２０１７／８／３０　６：１２：２５　ＩＤ：ＳｒＥ８ｄＲｙＩ５Ｈ

ワイも自作小説とか読んで見たいんじゃ

３５８：魔王軍親衛隊　２０１７／８／３０　６：１５：３１　ＩＤ：ＭＰ７ｖＭ４５ｇｔｘ

外国語並みに解読できるか不安

３５９：魔王軍親衛隊　２０１７／８／３０　６：２０：０９　ＩＤ：６Ｆｈｗｗｉｍ ＹＦＵ

＞＞３５８熊本は異国だもんな

３６０：魔王軍親衛隊　２０１７／８／３０　６：２３：２６　ＩＤ：Ｅ４ｂｑ４Ｄｌ２ｚＰ

魔道士の凄さが一段と分かるスレ

３６１：魔王軍親衛隊　２０１７／８／３０　６：２７：０８　ＩＤ：８ＮＯＶＦｌＭＦＳｌ

じゃあ飛鳥ちゃんは？

３６２：魔王軍親衛隊　２０１７／８／３０　６：３０：５９　ＩＤ：ＵｆｏＰＪＤＢＷｆｄ

飛鳥様の収容プロトコルはこれだ！←

３６３：魔王軍親衛隊　２０１７／８／３０　６：３５：４８　ＩＤ：ＨＡＬ９Ｅ３ｔｓＨ３

１／２のボク

ＳＣＰ―２０３―ＪＰ

オブジェクトクラス：Ｅｕｃｌｉｄ

特別収容プロトコル：ＳＣＰ―２０３―ＪＰは街の景色が見える窓の付いた一室に収容されています。部屋には広い机とホワイトボードと大きなベッドを用意し、娯楽などを必要とする場合は用意しましょう。ＳＣＰ―２０３―ＪＰは夜景や夜明け、黄昏時の夕日を好みますので自由に見られるように窓の配置には十分配慮しましょう。低血圧ですので朝方に起こすのはやめ、用事がある際は事前に言い目覚まし時計で起こしましょう。（その際目覚まし時計では起きませんので直接起こしてください）

ＳＣＰ―２０３―ＪＰが変な問いかけをして来た場合は無視しないよう必ず返答しましょう。この際聞き返す、話をそらすといったことはしないように、マジレスするか乗ってあげましょう。

例：１

「今日は……風が騒がしいね」

「台風だからな」

364：魔王軍親衛隊　2017／8／30　6：39：55　ID：vAI0GBetmU

>>363だからお前は何者なんだ

365：魔王軍親衛隊　2017／8／30　6：44：03　ID：sdbWbkV2qS

>>363本当に魔道士か!?

366：魔王軍親衛隊　2017／8／30　6：47：51　ID：6zZQXlclsP

>>363妙に具体的すぎない？

367：魔王軍親衛隊　2017／8／30　6：53：03　ID：PtXbjrtASk

>>363屋上

368：魔王軍親衛隊　2017／8／30　6：57：09　ID：rnK0PtTq0M

>>363あの孤独なsilhouetteは……？

369：魔王軍親衛隊　2017／8／30　7：02：01　ID：Rpzm6o

Dfu4
>>368動き出せば……？
370：魔王軍親衛隊　2017／8／30　7：05：15　ID：o0vTHvpnP6
>>369それは紛れもなく奴……？
371：コブラ　2017／8／30　7：09：44　ID：HAL9E3tsH3
もう寝ろお前ら
372：魔王軍親衛隊　2017／8／30　7：13：07　ID：NViEaT3Enz
>>371コブラじゃねーか！
373：魔王軍親衛隊　2017／8／30　7：17：00　ID：TyvCJ5
3iBw
>>371コブラじゃねーか!!
374：魔王軍親衛隊　2017／8／30　7：22：32　ID：edPeGoJbVf
>>371やっぱりコブラじゃねーか!!

３７５：魔王軍親衛隊　２０１７／８／３０　７：２６：２３　ＩＤ：ＩＴＷｎｇｂＹＤ４Ｍ
＞＞３７１おやすみじゃねーか!!
３７６：魔王軍親衛隊　２０１７／８／３０　７：２９：３０　ＩＤ：ｄ８ｉ３Ｇ２ＣｓｌＮ
＞＞３７１良い夢をじゃねーか！
３７７：魔王軍親衛隊　２０１７／８／３０　７：３５：０３　ＩＤ：ｑｉＰＮＩ３ｉ８ｉｇ
＞＞３７１何この…なに？

ーーー
ハル：おはよ……眠い
１／２のボク：やぁコブラ
ブリュンヒルデ：煩わしい太陽ね！コブラ!!
ハル：コブラ言うな
ハル：昨日はサンキューな神崎
ブリュンヒルデ：我の頭脳に該当する事柄無し

１／２のボク：とりあえずキミ、今日のお昼屋上だね
ブリュンヒルデ：マグマに浸かったコカトリスの肉を
ハル：唐揚げな、了解

その後スレでは魔道士か否かを考察され続けた

少女たちと歌姫の宴

１／２のボク：今日のカラオケはなかなかに興味深かったね
１／２のボク：まさかあそこまで春川くんの歌唱力が高かったなんて
ハル：からかうなよ二宮
ハル：アイドルに言われるのなんて皮肉もいいところだぞ
ブリュンヒルデ：皮肉ではなかろう
ブリュンヒルデ：我もそなたの戯曲に酔い痴れていた身
ブリュンヒルデ：従者よ、どこでその芸を身につけた
ハル：好きな歌をそのまま歌っただけだ
ハル：練習なんかたまに鼻歌歌うくらいだしな
１／２のボク：それで上手くなれればレッスンなんていらないね
１／２のボク：キミの歌声は見事なものだった。ボクらが証を示そう
ブリュンヒルデ：汝の歌に敬意を示そうぞ！
ハル：そこまで言われると照れる通り越して気持ち悪いぞ

１／２のボク：素直じゃないね、キミは
ブリュンヒルデ：全くである
ハル：ブーメラン刺さってんぞ

ーーー

その日、俺と神崎と二宮は休日が合ったのでカラオケに出向くことになったのだ。
「カラオケは初めて来たな、こんな所なのか」
「キミ、ボクたち以外に友達はいないのかい？」
失礼な奴だ、二宮にもほとんど友達などいないだろうに。
そこで笑っているお前もだぞ、神崎。
「そうは言うが、ボクらには事務所の仲間たちもいるからね。それに最近はキミのおかげでボクらに話しかけてくれる人も増えて来たものさ」
「左様。孤高の存在として謳われた我だが、崇められるのも悪くはない」
「可愛がられるの間違いだろ」
「むぅぅ!!」
ポカポカと神崎の攻撃を流しながら、さて歌うかとマイクを持つ。

「……どうやって曲を入れるんだ？」
「キミは本当に来た事がないんだね。仕方ない、最初はボクらが歌おう。これを使うんだ」
　そう言って二宮は妙に大きなパッドを持って来た。それを慣れたような手つきで扱い、しばらくして曲目が入る。
「『ｎａｍｅｌｅｓｓ　ｓｕｒｖｉｖｏｒ』……誰の曲だ？」
「岸田教団っていうロックバンドの曲さ。　……あぁ、どうせなら採点も入れようか。自身を磨くためには必須だからね」
「む、評が付けられるか。であれば我も我が魔力を用いて本気で行かねばならぬな」
「おいおい、勘弁してくれよ……」
　そうして曲が始まる。
　歌っている二宮を見ると、かなりこの曲には思い入れがあるらしく真剣で、その歌声に惹かれてしまう。
「……なんというか、二宮のためだけにあるような曲だな」
「然り。詞に写る意味は存在論者の叫びそのもの。おそらくそこで共鳴しあっているのであろう」
「あいつらしいっちゃあいつらしい」

二宮が叫ぶ意思。
自身の存在証明とは言うけれど、俺だって自分の存在証明など知りもしないし考えもしなかった。
ただ流されて生きてきて、これからも流されて生きていくのだろう。
『だったらキミはボクがどこにいても何をしてても、【ボク】を見つけてくれるのかい？』
そう聞かれた時、俺はなんて答えただろうか。
今ならなんて答えてやれるだろうか。
『キミはボクの言葉を聞いても距離を取らないんだね。みんながボクを面倒な奴だとか痛い奴だって言うのに。キミもその一人で、流されるタイプだと思ってたよ』
その時は、なんとなく流れが気に食わなかったんだ。
それだけのことだった。
曲が終わりを迎える。
二宮が満足そうにマイクを下ろしていく。

「どうだい？」
「……お前らしい曲だったよ」
「それだけかい？　　皮肉を混ぜたり歯の浮くようなセリフを吐かないなんて、キミらしくもないね」
「従者は歌声に耳を傾けるのに必死であったぞ。凄まじく集中しておったな」
「やかましい」
　否定の言葉は出ない。実際その通りだ。
　俺の様子を見て、二宮が誇らしげにニッと笑う。そして俺の耳元に口を近づけ、小声で呟いた。
「安心しなよ。もうあの頃のボクじゃないさ。キミに居場所を強要したりしない」
「……」
　それだけ呟くと二宮は俺から離れ、神崎にマイクを渡す。
「むう、何の話であるか？」
「何でもないさ。ただの遠い昔の話。さぁ、次はキミだよ蘭子」
「うむ……まぁ追求の手は伸ばさぬようにしよう」
　蘭子の入れた曲は……『色彩』？
「Ｆａｔｅ／Ｇｒａｎｄ　Ｏｒｄｅｒの主題歌だね。ボクも彼女も結構やってるんだ」

「Ｆａｔｅか、前に勧められたな。少し見たが確かに神崎は好きそうだ」
そういう意味では神崎らしい曲だ。
少し独特なメロディが鳴り響き、神崎が歌い出す。音程の取りにくそうな曲だが、あいつにはそんなもの関係がなかった。
「やっぱり上手いな、神崎は。歌の神崎に舞の二宮ってとこか？」
「歌も負けるつもりはないけどね」

『我は孤高の魔王であり、傷ついた悪姫ブリュンヒルデ。それで良い……良いのだ』

懐かしい幻聴だ。今でもあの光景は瞼に宿っている。
神崎は二宮に会う前、俺が遭遇した最初の厨二病患者であり、変人であり、一人ぼっちの女の子だった。
理解されないと分かっていても自身を貫き通した、寂しがり屋の少女。
「だから放っておけなかったのかい？」
「……顔に出てたか？」
「君は理解りやすいからね。蘭子を見る目がまるで父親のようだったよ」
意地悪そうに微笑む二宮を尻目に、俺は黙って神崎の歌に耳を傾ける。

『汝は我が従者、我が眷属、そしてーー私のはじめてのお友達になってくれるの？』

あの日、俺と神崎が友達になった日。
あの頃から何かが変わった気がするんだ。
あいつは俺が自分の環境を変えてくれたと思っているだろうけど、それだけじゃない。俺もあいつに影響されてるのかもしれない。
神崎の歌が終わる。二宮の手を叩く音で我に帰った。
「従者よ、どうであったか！」
「良かったよ。綺麗だった」
「そ、そう？　……えへへ」
神崎は照れたように笑って、誤魔化すように飲み物に手をつけた。
「お熱いところ申し訳ないが、キミの出番だよ春川くん」
妙に不機嫌そうな目で二宮が俺にパッドを渡してくる。
よく分からないが、さて、何を歌うかーー
「……『ｖｉｖｉ』か。好きなのかい？」
「この前お前と見に行った映画でこの人の曲が気に入ってな。それで調べて聞いたん

だ」
「へぇ、キミの趣味に影響を与えられたなんて光栄だね」
「お前らと一緒にいたら嫌でも染まるさ」
イントロが始まる。
マイクを持って、俺はぎこちなくも歌い始めた。

――

驚いた、と素直に告げよう。
彼が歌ったところをボクらは聞いたことはなかったが、まさかここまで上手いとは思わなかった。完全な予想外、それこそ歌手を目指せるんじゃないか？
「す、すごいね！　春川くん！」
「蘭子、ペルソナが剥がれてるよ。でもまぁ、確かにすごい」
蘭子の口調が崩れるのも無理はない。本当にカラオケ初心者かと疑いたくなるくらい、彼の歌はブレなく、真に迫っていた。
彼の歌がボクの心の中に這入ってくる。
湧き上がるのは、なぜだか分からないけれど、どうしようもない焦燥感。

理由もなく、耳を塞ぎたくなってしまう。

「蘭子」

「……なぁに？」

「……」

「……大丈夫だよ、飛鳥ちゃん。飛鳥ちゃんが何を怖がっているのか、よく分からないけど、きっとなんとかなる……ううん、なんとかしてくれると思うよ、春川くん」

何も言っていないのに見透かされている気がした。存外、彼女もボクと同じように恐れを抱いているのかもしれない。

ボクたちはアイドルで、彼は男の友達。

彼と付き合えるのは、今はまだボクらが駆け出しだから。

アイドルとして大成したいし、それを目標として努力しているけれど、もしそうなって仕舞えばその時はーー

ーー果たして彼はボクらの隣に、存在しているのだろうか。

少女とグダッと　蘭子編

ハル：【急募】ＦＧＯ始めたんだけど何からしていいか分からん
ブリュンヒルデ：序章は幕を下ろしたか？
ハル：十連は引いた
ブリュンヒルデ：ふむ、如何なるサーヴァントが汝の下に訪れたか
ハル：イリヤってのが出た
ハル：こいつサーヴァントじゃなくて本編の敵キャラじゃなかったか？
ブリュンヒルデ：いーないーな！
ブリュンヒルデ：であるが、ううむ
ブリュンヒルデ：魔術師であればこの先辛いかもしれぬ
ブリュンヒルデ：育てるに越した事はないが
ハル：あーなんか聞いたわ
ハル：ワイバーン地獄だっけ
ブリュンヒルデ：我が盟友となり下僕の者を遣わそう

ブリュンヒルデ：悪鬼羅刹の悪名を持つ暴虐の化身
ブリュンヒルデ：酒呑童子をな
ハル：サンキュー
ハル：とりあえずストーリーを進めればいいのか？
ブリュンヒルデ：うむ、物語を進め召喚の炉を回すが良い
ブリュンヒルデ：出来うることなら三十の星々をつぎ込むと良いぞ
ブリュンヒルデ：序盤は盟友に頼り己は育成に励むと良い
ハル：マシュって育てたほうがいいんだっけ
ブリュンヒルデ：六章まではどちらでも構わぬ
ブリュンヒルデ：無論育てて損は決して無いが、まずは火力の確保を先決とせよ
ブリュンヒルデ：バーサーカーがお勧めであるが最終的には因縁であるため
ハル：ガチャを回せ、か
ハル：了解、まぁやってみる
ブリュンヒルデ：うむ、世界を救ってくるといい！

ブリュンヒルデ：従者よ
ブリュンヒルデ：我、救援を必要とす

ハル：なんだ
ブリュンヒルデ：死霊使いに捕縛され
ブリュンヒルデ：ネクロノミコンの教典の一部を焼き付けられている
ブリュンヒルデ：このままでは邪悪な力に支配されてしまう
ハル：魔王が甘ったれてんじゃねえ
ブリュンヒルデ：たすけて
ブリュンヒルデ：おねがい
ハル：何をすればいい？
ブリュンヒルデ：……どうしよう
ハル：て言うか死霊使いって誰で今どこにいるんだよ
ブリュンヒルデ：小梅ちゃんの部屋
ハル：白坂小梅か
ハル：俺からは何も出来そうに無いな
ブリュンヒルデ：我に闇に染まれと言うか!?
ハル：さすがにアイドルの寮には入れねえよ
ハル：殺されるわ
ブリュンヒルデ：ぬ、ぬうううう

ハル：あー
ハル：だったら終わったら迎えに行ってやるからうちに来い
ハル：一緒にゲームでもしようぜ
ブリュンヒルデ：……帰りも送ってくれる？
ハル：当たり前だ
ハル：どうする
ブリュンヒルデ：行く
ハル：じゃあ頑張れよ
ブリュンヒルデ：うん

ブリュンヒルデ：やっぱりむぅーりぃー!!!
ハル：ォ!!

そのあと流石に家には泊まらなかったけれど飛鳥のヘルプが来るまで離れなかったそうな……

少女とグダッと　飛鳥編

1／2のボク：例えば、だけれど
1／2のボク：もし何の作為もなく、目的もなく、ただ歩いているだけでボクらが合流したら
1／2のボク：それは運命の選択と言えるんじゃ無いかな
ハル：……
ハル：それはつまり偶然同じ街にいるから一緒に遊びましょうっていう
ハル：デートのお誘いと思っていいのか？
1／2のボク：キミがそう思うんならボクはそれでも良いんだけどね
1／2のボク：そうだな、ボクのいるところが分かったらそのまま逢瀬のひと時を楽しむのもいいと思うよ
1／2のボク：無論、ボクの居場所が分かればの話だけどね
ハル：オーケー
ハル：その挑戦受けて立とう

ハル：今更デートはなしは無しだぞ
１／２のボク：もちろん、誘ったのはボクだ
１／２のボク：望むところだね
１／２のボク：ヒントはいくつまであげればいいんだい？
ハル：バカにすんな
ハル：すぐに見つける

１／２のボク：３０分経過だ
１／２のボク：催促するのも無粋だとは思うが、ボクにも都合はある
１／２のボク：門限までには帰らないといけないしね
ハル：探してる最中だ
ハル：退屈だとは思うが待ってろ
１／２のボク：退屈だなんてそんな
１／２のボク：キミがいつここに辿り着くのが楽しみで退屈なんて感じられないよ
ハル：言ってろ
ハル：こちとら普通の男の子なんだ
ハル：女子とのデート権をみすみす見逃すかよ

1／2のボク：キミ、推しは文香さんじゃなかったかい？
ハル：ふみふみは女神だから

1／2のボク：1時間経過
1／2のボク：ほらほら、ヒントが欲しいんじゃないかい？
1／2のボク：意地を張ってる暇ないんじゃないかな
ハル：意地があるのさ男の子には！
1／2のボク：あともう少しで家に行くよ
1／2のボク：デートと言ってもとても短そうだね
ハル：お前移動してないだろうな！
1／2のボク：先に言ったと思うけれど
1／2のボク：ただ歩いているだけで合流出来たらと言ってるじゃないか
1／2のボク：あとはキミのご想像にお任せしよう
ハル：絶対見つけてやる

1／2のボク：1時間半経過
1／2のボク：もう限界かい？

1／2のボク：春川くん？

1／2のボク：応答無し、か

「”まぁ、仕方ないけどね”……っと」

スマホを操作し、送信しようと画面を押そうとしたところで影が差した。

ゆっくりと顔を上げる。そこには息も絶え絶えの待ち人の姿があった。

「よく分かったね」

「そういやぁって思ったんだ、お前は一言も俺と同じ街にいるとは言ってねえなって」

ボクの居場所はキミの家の前。

あらら反則。何の作為もと言ったけれどあれは嘘だ。

作為はあった。

ただしイジワル問題というね。

「それからもう少しで家に行くよって言ってたからな。大ヒント過ぎてナメてんのかって思ったぜ」

「キミが遅いのが悪い。さ、部屋に上げてくれ。今日は何だか……冷える」

「自業自得だろアホ。何か嫌なことでもあったのか知らんが、今日はとことん遊ぶぞ」
そう言って玄関へと歩いて行く彼の背中は何故だかすごく大きく見えた。
どうしても綻んでしまう口元を隠しながら、ボクもその後に続く。
あぁーー今日も夕日がとても綺麗だ。
あといつまで、ここからの夕日が見れるのか。
ボクはそれを、数えたくはなかった。

４２期二年四組裏掲示板６２スレ目

５７７：名無しの生徒諸君　２０１７／１０／９　２３：５７：３０　ＩＤ：ＱｖＧＥＭＬＲＱＷＳ
今日の蘭子さんも可愛かったー
でも春川と話してる時の蘭子ちゃんめっちゃ可愛いんだよなぁ
５７８：名無しの生徒諸君　２０１７／１０／１０　０：０１：５３　ＩＤ：Ｔ４ｋＡｚ８５Ｘｅｍ
今日の飛鳥くんもかっこよかったー
でも春川くんと話してる時の飛鳥くんギャップ萌えなのよね
５７９：名無しの生徒諸君　２０１７／１０／１０　０：０５：４７　ＩＤ：９ｃｌＨ８４ＮｑＡｎ
＞＞５７７―５７８春川許さん
５８０：名無しの生徒諸君　２０１７／１０／１０　０：１１：３８　ＩＤ：Ｃｉ４ｙｄＸｅｕＹ４
＞＞５７７―５７８春川絶許

５８１：名無しの生徒諸君　２０１７／１０／１０　０：１５：１４　ID：５ｗＲ３ＪＳｏ８Ｗｊ
でも春川くんのおかげで二人とも取っつきやすくなったっていうか仲良くなれたというか
５８２：名無しの生徒諸君　２０１７／１０／１０　０：１９：３３　ID：ｇＩＬ０ｕＮ１ＹＫ２
春川の翻訳のおかげで俺も熊本弁が分かるようになったしな
５８３：名無しの生徒諸君　２０１７／１０／１０　０：２３：３３　ID：ｐ１ＨｄｏｐＺＷＢＢ
バイリンガルとしての能力がなければ今頃……うごごご
５８４：名無しの生徒諸君　２０１７／１０／１０　０：２８：０５　ID：ｕＮＭ７ＺＭ６Ｋ７Ｐ
二宮コミュニケーション方法が確立されている今あいつはもはや不要
５８５：名無しの生徒諸君　２０１７／１０／１０　０：３１：４７　ID：３８ｂｒ９８ｈｒｕＵ
＞＞５８４春川不要説出たか？
５８６：名無しの生徒諸君　２０１７／１０／１０　０：３６：２０　ID：５Ｍ３

ｅｌＸｏｄＸＫ
そろそろ我ら四天王が動き出す時が来たか……
５８７：名無しの生徒諸君　２０１７／１０／１０　０：４０：１１　ＩＤ：ＶＫＷＡＥＡｔＬｖ９
イかれたメンバーを紹介するぜ!!
５８８：名無しの生徒諸君　２０１７／１０／１０　０：４３：３０　ＩＤ：Ｉｎｑ０ＭＫ８Ｃｂｗ
＞＞５８７メンバー誰だよ
５８９：名無しの生徒諸君　２０１７／１０／１０　０：４８：２９　ＩＤ：ｆＭ９０８Ｆｉ９ＥＭ
＞＞５８８春川とか……？
５９０：名無しの生徒諸君　２０１７／１０／１０　０：５３：２０　ＩＤ：ＺＣｉＧＩＡｎｌｗＱ
あいつはイかれてる間違いない
５９１：名無しの生徒諸君　２０１７／１０／１０　０：５６：４７　ＩＤ：ＭＰＴｎｔｅｘ５ａ４
春川全盛期伝説

・神崎語翻訳は当たり前、二宮語録も
・初回厨二病パーフェクトコミュニケーションを頻発
・春川にとっての厨二病患者は神崎蘭子のなり損ない
・二宮語録誕生も日常茶飯事
・神崎語を誰も理解していない中、一人でパーフェクトコミュニケーション
・熊本弁は外国語に聞こえる
・ペン回しで二宮を感心させる
・怒ると神崎が普通の言葉を喋った、泣いて謝る二宮も
・他人が翻訳したものが気に入らなければ処分
・あまりに仲良いから喧嘩しても仲が良い
・その喧嘩も夫婦喧嘩
・神崎を撫でても普通に喋らせる
・二人と会えない日でも落ち込まない
・ライブ当日の時も授業放って駆けつけた
・言葉を交わさずとも目で会話できる
・二宮語録を普通の言葉に翻訳して神崎語に再翻訳
・あれはメラゾーマではない、メラだ

・風が騒がしい時は大体こいつのせい
５９２：名無しの生徒諸君　２０１７／１０／１０　０：５９：５６　ＩＤ：ｎｌＴｘＪ８Ｌｚａ３
いつ見てもあながち間違いじゃないのがすげえな
５９３：名無しの生徒諸君　２０１７／１０／１０　１：０４：０８　ＩＤ：ＹｚＭｕｆ８Ｌｎ６１
こいつ本当に人間か？
５９４：名無しの生徒諸君　２０１７／１０／１０　１：０８：４５　ＩＤ：ｏｕｕＪＱＪＹｑＡ４
化け物を殺すのはいつだって人間だ
５９５：名無しの生徒諸君　２０１７／１０／１０　１：１１：５６　ＩＤ：ｆｈＣｏＩＸｅｈ５Ｇ
＞＞５９４春川は吸血鬼だった……？
５９６：名無しの生徒諸君　２０１７／１０／１０　１：１５：５４　ＩＤ：Ｒｄ２０ＹＭ９ｔＷｏ
実際春川ってすげえ良いやつなんだよな
５９７：名無しの生徒諸君　２０１７／１０／１０　１：２０：５４　ＩＤ：ｗｊＭ

ＺＳｒＯｕｋｌ
宿題見せてくれるし
５９８：名無しの生徒諸君　２０１７／１０／１０　１：２６：１７　ＩＤ：ｄＦ７
Ｘ０ｐＦｇＪｘ
なんかあったら手伝ってくれるし
５９９：名無しの生徒諸君　２０１７／１０／１０　１：２９：５２　ＩＤ：ｆ０Ｏ
ＸｙＭｌａｇｒ
普通に見れる顔だし
６００：名無しの生徒諸君　２０１７／１０／１０　１：３５：４３　ＩＤ：ｈ０ｔ
ＣｋＩｅＰＤｉ
分かるブサイクじゃないよねイケメンでもないけど
６０１：名無しの生徒諸君　２０１７／１０／１０　１：３８：５５　ＩＤ：ｒｔＧ
ｅｖ０ＹＯＴＣ
でも神崎と二宮を侍らせてるって言ったら？
６０２：名無しの生徒諸君　２０１７／１０／１０　１：４２：４３　ＩＤ：ａｆｚ
ｖｏｒＣｚＦｌ
＞＞６０１ギルティ

６０３：名無しの生徒諸君　２０１７／１０／１０　１：４７：５１　ID：y２k
DtVQ４g３
>>６０１ギルティー
６０４：名無しの生徒諸君　２０１７／１０／１０　１：５３：２７　ID：AVV
anpzV６９
>>６０１死刑
６０５：名無しの生徒諸君　２０１７／１０／１０　１：５７：１０　ID：zdU
px２pdOt
>>６０１磔&鞭打ち
６０６：名無しの生徒諸君　２０１７／１０／１０　２：０２：４６　ID：３fi
kDfYkUl
>>６０１毎日あいつの靴に画鋲が入いる呪いをかけた
６０７：名無しの生徒諸君　２０１７／１０／１０　２：０６：５６　ID：WKM
Jcr９yFv
でもあいつがいなくなったら多分二人が悲しむ……
６０８：名無しの生徒諸君　２０１７／１０／１０　２：１２：０６　ID：PRK
Lk５A６YW

>>607ホイミ

609：名無しの生徒諸君　2017／10／10　2：16：12　ID：rrB

Iz4Uggge

>>607ベホイミ

610：名無しの生徒諸君　2017／10／10　2：21：11　ID：G5i

fDgYUq5

>>607ベホイマ

611：名無しの生徒諸君　2017／10／10　2：26：59　ID：gUx

lcDnaxk

>>607ベホイム

612：名無しの生徒諸君　2017／10／10　2：32：42　ID：h38

7yy8B7b

>>607ベホマ

613：名無しの生徒諸君　2017／10／10　2：36：35　ID：UBD

043t7AT

>>607ザオ

614：名無しの生徒諸君　2017／10／10　2：42：30　ID：Jan

Ｄｓ８ＦＧＢＤ
＞＞６０７ザオラル
６１５：名無しの生徒諸君　２０１７／１０／１０　２：４６：２４　ＩＤ：ｓＬＤＷｙｄＶ７ＭＳ
＞＞６０７ザオリク
６１６：名無しの生徒諸君　２０１７／１０／１０　２：５２：２２　ＩＤ：Ｈａ９ＡｖｅｗｘｈＹ
＞＞６０７マダンテ
６１７：名無しの生徒諸君　２０１７／１０／１０　２：５６：３３　ＩＤ：ｌＶＩｏＯａｖｊ６ｕ
＞＞６１６おいこいつ異常者だぞ!!
６１８：名無しの生徒諸君　２０１７／１０／１０　３：０１：３９　ＩＤ：ｈＱＵＧｒ３ｆＨｅｐ
＞＞６１６親衛隊出動!!見つけ次第殺せ!!
６１９：名無しの生徒諸君　２０１７／１０／１０　３：０６：０７　ＩＤ：ＮＯｔｗｂＧＦＩＺｕ
とりあえず今の状況は保留？

６２０：名無しの生徒諸君　２０１７／１０／１０　３：０９：１８　ＩＤ：ｈｊｌＫＶｏＨｃｉ５
ぶっちゃけ二人が笑顔なら無問題
６２１：名無しの生徒諸君　２０１７／１０／１０　３：１４：２８　ＩＤ：ｃ５ｆＷｋｓＨＭＷＰ
春川が話しかける前には戻って欲しくないしな今が一番
６２２：名無しの生徒諸君　２０１７／１０／１０　３：１８：１７　ＩＤ：２Ｙｇｌ ＣＤＤＸｇｊ
＞＞６０７二フラム
６２３：名無しの生徒諸君　２０１７／１０／１０　３：２２：２９　ＩＤ：Ｄｄｚｌｈ Ｊｊ５Ｆｓ
＞＞６２２少なくとも遅いお前よりはレベルが上だから効かないぞ
６２４：名無しの生徒諸君　２０１７／１０／１０　３：２５：５８　ＩＤ：Ｅ６ＰＲｚＢＰｈＭｂ
そういえば春川が神崎さんのブログでファンから魔道士って言われてるの草
６２５：名無しの生徒諸君　２０１７／１０／１０　３：２９：４５　ＩＤ：Ｉｄｂｐｆ ＯＭＴ２ｖ

神崎さんから魔道士として広められてるのマジウケる
６２６：名無しの生徒諸君　２０１７／１０／１０　３：３４：２１　ＩＤ：６ＣＷ０ＭＸｗＩｋｔ
飛鳥くんのブログでも共犯者とか観測者って言われてるらしいよ
６２７：名無しの生徒諸君　２０１７／１０／１０　３：３８：５７　ＩＤ：ｓｇｂＷＣＳｂｙＲＷ
＞＞６２６なにそれ羨ましい
６２８：名無しの生徒諸君　２０１７／１０／１０　３：４４：３０　ＩＤ：Ｒｌ３７７０ｊ０ＩＢ
＞＞６２４＞＞６２６ファンから認められてるとかマジパネエ
６２９：名無しの生徒諸君　２０１７／１０／１０　３：４９：４２　ＩＤ：ｕ０６４ＫｖｄＪＲ９
また一つ伝説が生まれてしまったか……

ーーー

ハル：そういえば最近クラスの奴らがすげえ殺気と暖かな目を向けられるんだけど何か知ってる？

１／２のボク：さぁ……
１／２のボク：心当たりはないね
ブリュンヒルデ：我が軍団の中に刺客を紛れ込んでいると!?
ハル：刺客か……
１／２のボク：どうかしたかい？
ハル：なんでもねー
ハル：んじゃおやすみ
ハル：明日は家庭科で調理実習だぞ。来るんなら準備しとけよ
ブリュンヒルデ：我が錬金術で至高の料理を精製しようぞ！
１／２のボク：料理はあまり得意ではないんだが……
１／２のボク：春川くんが教えてくれるんだよね？
ハル：俺もあんまり上手くないけどな
ハル：一応同じ班にしといたからまぁ毒味はできるぞ
１／２のボク：失礼な話だが……否定はできないな
ブリュンヒルデ：では我はそろそろ眠らせてもらおう
ブリュンヒルデ：深淵の誘いを！
１／２のボク：おやすみ、また今日に

ハル：おぉ、おやすみ

調理実習では特に美味しくもない料理にクラス全員が並んだとか

少女たちと１４歳①

ブリュンヒルデ：立ち込める暗雲の空ね！
１／２のボク：おはよう
博士：もう朝か……
博士：あぁおはよう、そしておやすみ
カワイイ天使：おはようございます！
カワイイ天使：晶葉さん、また徹夜ですか？
カワイイ天使：ダメですよ、お肌に悪いんですから！
カワイイ天使：クマとか作ったらまたプロデューサーさんに怒られますよ！
博士：仕方ないだろう
博士：もうすぐ新しい発明品が完成するんだ
１／２のボク：今回は合作だったね
博士：うむ、助手が以前から欲しいと言っていた物でな

博士：私もロボット開発に進歩をもたらすと思い採用した
ブリュンヒルデ：そなたの右腕とは如何なる人物か？
博士：幼稚園からの幼馴染でな
博士：中学では離れてしまったが今でもたまに会っては発明について話し合っている
博士：ふむ、そういえば蘭子と飛鳥の中学と同じだったな
１／２のボク：そうなのかい？
１／２のボク：もしかしたらすれ違っている可能性もあるかもね
ブリュンヒルデ：我が従者に聞けば分かるかもしれぬ
ブリュンヒルデ：特徴などはあるだろうか
博士：ふむ……特徴か
博士：特徴なぁ……ないな
カワイイ天使：ないんですか!?
博士：強いて言うなら……ううむ
博士：ロボットが好きだ
カワイイ天使：外見的特徴じゃないんですか!?
博士：イケメンではない
カワイイ天使：辛辣ぅ！

カワイイ天使：ていうか男の人だったんですか
カワイイ天使：気をつけなくちゃダメですよ、どんなことでファンの人を裏切るか分からないのですから
博士：抜かりはない
博士：いざとなればこのペン型記憶消去装置で……な
カワイイ天使：ＭＩＢ!?
カワイイ天使：晶葉さん黒服の仲間だったんですか!?
博士：おっと
博士：ふふふ私なりのジョークだ
博士：幸子くん、少し用事があるので私の研究室に来たまえ
カワイイ天使：いーやー！
カワイイ天使：カワイイボクの記憶がけーさーれーるー!!
１／２のボク：今日も元気だね
ブリュンヒルデ：全くである
１／２のボク：それで？
１／２のボク：他にはまだ何かないのかい？
博士：むむむ……

博士：あぁ、最近なんか通訳をしているようだ
ブリュンヒルデ：む……？
１／２のボク：は
博士：すまないが私もう眠気を抑えられそうにないのでな
博士：ではおやすみ
カワイイ天使：おやすみなさい晶葉さん
カワイイ天使：どうかしたのですか蘭子さん、飛鳥さん
ブリュンヒルデ：……何故だろうか
ブリュンヒルデ：我が魔力が反応したような気がするのだが
１／２のボク：奇遇だね
１／２のボク：ボクもデジャビュを感じているよ
カワイイ天使：よく分かりませんがボクはもうそろそろお仕事なので落ちますね
カワイイ天使：今日もみなさん頑張りましょう！
１／２のボク：あぁ、いってらっしゃい幸子
ブリュンヒルデ：武運ある旅立ちを!!
ＳＡＮＡ：おっはー

ＳＡＮＡ：事務所に今から行くんだけど誰かいる？
ブリュンヒルデ：我は未だ魔力の補充を行なっている
ブリュンヒルデ：汝の口にする魔力の素を聞こう
ＳＡＮＡ：あ、ありがと。じゃああたしリンゴジュースで
ブリュンヒルデ：その願いを聞き届けた！
ＳＡＮＡ：あ、そーだ蘭子ちゃん
ＳＡＮＡ：ゲーム何か持ってきてる？
ブリュンヒルデ：ＶＩＴＡがあるよ
ＳＡＮＡ：ソフトは？
ブリュンヒルデ：自由を求める永遠の聖戦
ＳＡＮＡ：凄いとこ攻めるねぇ
ＳＡＮＡ：フリーダムウォーズはあたしも持ってるけど
ブリュンヒルデ：難航している
ＳＡＮＡ：難しいもんねぇ
ＳＡＮＡ：仲間のＡＩと復活時間はどうにもならなかったのかな
ブリュンヒルデ：武器改造の度に待機時間はどうかと……
ＳＡＮＡ：んじゃそれ持ってくから

ＳＡＮＡ：協力プレイしよ
ブリュンヒルデ：うん！
ＳＡＮＡ：そういえば
ＳＡＮＡ：春川くんだっけ
ブリュンヒルデ：我が従者がどうした？
ＳＡＮＡ：この前また対戦したんだよね
ブリュンヒルデ：永遠の仇敵と言っていたが
ブリュンヒルデ：戦績はどれくらいなのだ？
ＳＡＮＡ：今のところ３１戦１７勝１４敗かな
ＳＡＮＡ：結構ギリギリな勝負だけどね
ブリュンヒルデ：結構な戦闘数なのだな
ＳＡＮＡ：まぁＨＡＬと戦うためにあのゲーセン通ってるのもあるけどね
ブリュンヒルデ：絆の線は交わさぬのか？
ＳＡＮＡ：んー
ＳＡＮＡ：たまーに会ってたまーに戦うのが良いんだよね
ＳＡＮＡ：何ていうか、ここで会ったが百年目!!
ＳＡＮＡ：的な

ブリュンヒルデ：運命の宿敵というわけね

ＳＡＮＡ：かもね

ＳＡＮＡ：俺より強い奴に会いに行くも楽しいけど

ＳＡＮＡ：拮抗した実力を高め合う今の関係がちょうど良いのかも

ＳＡＮＡ：もうすぐ着くよー

ブリュンヒルデ：うむ、待っているぞ!!

少年少女たちの夏休み

『今流行りのアイドルユニットであるダークイルミネイトのお二人をゲストにお呼びしましたー!!』

テレビの向こうに映る彼女たちは、どう形容すれば良いか……まるで友人である彼女のドッペルゲンガーという錯覚を感じた。

客観的に見て、これは現実逃避だ。

自分の友達が誰だったか分からなくなるなんてのは、酷くもどかしくなる。

『ダークイルミネイトのメンバーである二宮飛鳥さんと神崎蘭子さんはどちらも中学二年生なんですよね』

『ええ、まさに世間で言うところの中二病真っ只中です。いつも友人などに迷惑をかけてる自信があります』

『我も良き友に恵まれていると感じている。万の感謝を以っても足らぬであろう』

『飛鳥さんにとって、中二病というのはどういうものなのでしょうか？』

二宮にとっては強がりだ。

『強がり……ですかね。意地というか、納得できないものがあったから、虚勢を張り続けています』
『なるほど……蘭子さんはどうでしょうか？』
神崎は、フィルターかな。
『我……えと、私は……その、会話があまり得意ではなくて……き、緊張してしまうのですが……』
『蘭子、大丈夫だよ。頑張って』
『う、うん。あの……キャラになりきって話すと緊張しなくなるので……――こうして、高貴なる闇の魔力で自身を護っているのだ』
『な、なるほど……ありがとうございました』
司会の人が少し引き気味に切り上げ、そして曲紹介へと移り、彼女たちのステージが始まる。
彼女たちのユニット初曲である【双翼の独奏歌】は万人受けではないものの、一度聞けば彼女たちの曲であるとすぐに分かる曲だ。
歌詞、ダンスの振り付けは共にそれ相応のファンタジー性を伴っており、聞けば見れば、それほど味を出してくる。
机の上に広げている雑誌に目を移す。

『堕天使降臨!?　黒い翼を生やした少女たち』という見出しで大きく見開きを飾り、後のページでかなりの量の文字数であるインタビュー記事が載った今週号だ。
これはツテでゲットした物で、今本屋に行けばすでに完売しているだろう。
「……夏休みなのに、大変な奴らだな」
俺は家でゴロゴロとできる休日の毎日。
片や休みのおかげで仕事が増え毎日引っ張りだこである彼女たち。
焦燥感。
黒い煙が胸を燻る。
「ーーゲホッゲホ!?」
違うこれ物理的に辺りに黒い煙が立ち込めてる!!
「火事!?」
焦げ臭さと夏の温度だけじゃない熱さを肌に感じる。
目眩でパニックになりながらも火事場の馬鹿力か人生で一番の俊足を見せた俺の足が玄関までたどり着き、そのまま外に飛び出た。
「はぁっ……はぁっ!　なんだよちくしょう!!」
見ると、火事なのはウチではなく隣の家で、その火が俺の家に燃え移っている。
すぐさま消防車をと思ったが、急いで出たためスマホを家の中に置いてきていた。つ

いでに雑誌は何故か手に握りしめていたままだった。
そんなに大事か、それが。
その選択は、おそらく本心なのだろうけれど。
遠くでサイレンの音が聞こえる。
騒音が小さくなっていき、俺は一人そこに座り込んだ。
ふと少しの笑みが浮かんでくる。
「……遠くなったんだから、どっちでも同じだろ」
その言葉の意味は自分でも分からなかったけれど、何故か胸にストンと落ちた。
めのまえが　まっくらになったーー

救急車に運ばれるほどの怪我は負っていなかったので、そのまま警察に事情聴取された。隣の火なので、俺からは事実確認だけだった。カツ丼はなかった。
保護者に連絡はつかない。
父親も母親もとうの昔にいない。いるのはただ一人、一番疎遠になりたい姉貴がいるだけだ。
断腸の思いで姉貴の連絡先を警察に教え、そして仕事でデスマーチの真っ最中であろう姉貴に連絡が行き渡った。

姉貴はただ一言ーー
「うちに来て」
それだけを俺に伝えた。

中学二年の夏休み序盤。
最悪の運を引いちまった。
家が火事になったことは前兆に過ぎない。
まだネカフェに泊まった方がマシとさえ思う。
とあるビルの前に俺は立っている。
来た回数は少なく、中に入ったことは一度もないその場所は、俺にとっては地獄の門そのものだった。
中から姉貴が出てくる。
「……災難だったね」
「今からな」
姉貴の名札にはこう書かれている。
『千川ちひろ』

ここ３４６プロダクションの事務員で、そこに勤めている二宮や神崎のプロデューサーである人物の嫁。
またの名を、春川ちひろだ。

ＡＩは考えることをやめない

最初に存在を認識したのは……あー、確か小学三年生の夏休み明けだな。
夏休みの課題で自由工作ってものがあったんだ。
みんなが小学生らしいものを作っていた中、私は初期構想あたりのウサちゃんロボを作っていた。
その時はまだウサちゃんロボなんて名前はついてなくてな、無機質な飾り気のないロボットだったんだ。
で、まぁ自分で言うのもなんだが天才なんでな、小学生らしくもない自由工作をして持ってきて、先生に褒められまくったんだ。そうだな、正直に言えば嬉しかったよ。
でも周りには私が作ったのだと信じる者の方が少なかった。いなかった、とも言えるな。一人を除いて……言わなくても分かるな。
とにかく嫉妬とか、やっかみを受けた。子どもというのは手加減がなくてな、大人に作ってもらっただろだの、それを盗んできただの、不正だの、盗人だの……まぁそんな

あたりだ。

私もその時は子どもだった……今でもだが。

とにかく、意地っ張りはその時からあったし、同級生に反発していった。それでもやっぱり味方はまだいなかったから、泣きながら違う違うとしか言えなくて……最終的にはロボットを壊されかけたんだ。

それを……あいつが守ってくれた。あの時の顔を今でも思い出せるよ。最も、思い出せない顔などないが、天才だからな。

あいつは心底面倒そうな顔をして、こう言った。

それはアウトだ、とな。

みんなが訳わからないと言った顔をして、一斉にあいつを責め立てた。私も一緒にな。だがあいつは怯むこともなく私の前に立ち、「だから何だ」と言った。

「たがが宿題だろ、これの出来はすげえけどそれでお前らの成績が下がる訳じゃねえじゃねえか」、酷く利己主義なやつだなとは思った。

でも相手はまだ小学生の子供で、理屈なんか通じない相手だったから対立が起きた。イジメのようなものも始まった。

あいつは……それから最後まで私のそばにいてくれた。理由を聞くと、「ロマンを感じた。俺にはそれが必要なんだ」と言っていた。初めは理解できなかったけど、あいつ

と遊び始めてからゲームを一緒に遊び始めてな。
アーマード・コア……懐かしいな。
私とあいつの求めているロボット像は違うけれど、それでもロボットが好きだという思いは同じだった。そこに可能性を感じていたんだ。
それから卒業まで私たちは一緒に遊び続けた。
ウサちゃんロボの考案もあいつからでな。初めはビジュアルなどと思っていたが、あいつが無駄に私のロボットをカッコ良くしようとしてな、私だって女の子なんだ、可愛いのが良かったからウサギにしたんだ。
……あいつはいつも私を庇っていたし、私はあいつの背中を見るのが好きだった。同じくらいの身長なのにとても大きく見えたんだ。
む、いや恋とかじゃないさ。あっちもそうだろう。
友愛なんだ、私たちの間にあるものは。
言っただろう？　あいつは酷く利己主義なんだ。
私はあいつという楯を、あいつは私の中の可能性を信じていたから守っていただけなんだ。
卒業式の日にもう一度聞いたんだ。どうして守ってくれたのかって。
そしたらあいつ、「あれでロボット作りを止められたら困る。お前みたいなのは技術

発展を起こして、ガンダムを動かして見せたりするんだよ」と言っていたな。
その時気付いた、あぁこいつは馬鹿なんだって。
あいつと付き合っていくなら気をつけろよ。
利用する気で行け。私はそうしていたし、あいつもそうしていたからすごく気楽だっただけだ。
あいつは価値のあるものには全力を以って行動を起こす究極的なエゴイストだ。だから、あいつを利用することに罪悪感はいらないんだ。
ただ……頼むからこれだけはしてくれるなよ。
必ず己を交渉材料に使うな。脅しは、あいつにとって逆効果でしかないんだから。
これくらいだよ、あいつのことは。
じゃあ、これから私は用事だ。邪魔してくれるなよ。
何って……今日は助手からお願いされたザクの発表日なんだ。

少年少女はすれ違う

問い：以下の単語から想像すべき光景を述べよ

『腐臭』
『缶ビール』
『缶ビール』
『空の缶ビール』
『膨れ上がったゴミ袋』
『生ゴミが詰まったゴミ袋』
『腐臭腐臭腐臭腐臭腐臭腐臭腐臭』
『埃を被った廊下』
『缶ビール』
『カビの生えた惣菜』
『腐臭』

答え：姉貴の自宅

この問いに正解した者は正気度チェック１ｄ６／１ｄ１０。

「なんて考えてる場合じゃねえな……これは」

眉の寄った皺がいつまでも取れないまま、俺はその場で立ち尽くしていた。

掃除という選択をぶん投げるかのように、もはやその場所に清潔さという可能性は消え失せている。

「……しなきゃ、寝る場所も確保できないんだけどな」

つまりは掃除しろ、と。

あの姉貴は弟の俺を清掃員とでも思っているのだろうか。

真面目な話、この部屋の有様を見るにデスマーチは未だに行進中らしい。

およそ一ヶ月は家に帰れていないのだろう。

アイドルの一斉デビューは良いことばかりではないようだ。

まず換気。

腐臭を外に放出し、俺以外の誰かもこの臭いでＳＡＮチェックしないかなと最低な願いが頭をよぎる。バイオハザードでウィルスを放出した人もこんな気持ちだったのだろうか。

ゴミ袋は曜日も時間帯も合ってはいないので、嫌がらせに姉貴の部屋に投げ込み隔離

しておいた。部屋の前に消臭剤を置いたのは優しさと言う名の結界である。
缶ビールは全部空かと思いきや中途半端に残っているものもあり、俺の手と服が濡れたのは絶対許さない。シンクに残りを捨て、空き缶を全て集め姉貴の扉の前に消臭剤と共にピラミッドを建てる。
カビの生えた惣菜を供え物にしようかと思ったが、さすがに臭いので姉貴の部屋の中に押し入れて置いた。
消臭剤と空き缶ピラミッド、そして中には無数のゴミとカビの生えた惣菜。文字通り墓標である。合掌して満足したのでその部屋は放置して本格的な掃除に移る。
「……掃除機はすげえ高性能なのにな」
吸引力が変わらなくても使わなければ粗大ゴミである。
掃除が終わる頃には、夜が深くなっていた。

ーーー

ＳＡＮＡ：どうだった？
ＳＡＮＡ：二人
カワイイ天使：ようやく落ち着いたようです

カワイイ天使：二人ともPさんが寮まで送っていきましたよ
ＳＡＮＡ：いきなりびっくりしたよ
ＳＡＮＡ：事務所に帰ってくるなり泣き出すからさ
カワイイ天使：説明してもらおうにも蘭子さんはともかく飛鳥さんまで何も言えないくらいでしたからね
カワイイ天使：何があったんでしょうか……
博士：興味深い会話をしているな
博士：飛鳥と蘭子に何かあったのか
ＳＡＮＡ：晶葉ちゃん今起きたの？
カワイイ天使：生活リズムを整えてくださいとあれほど！
博士：いや発明で集中していただけだ
博士：オフだからって何も反応しなかったのは悪かったよ
カワイイ天使：それなら良いですけど……
ＳＡＮＡ：あの二人があんなになるなんて
カワイイ天使：何か心当たりはありませんか？
博士：ううむ……二人とは私生活ではあまり……
ＳＡＮＡ：春川くんが何かしたのかな？

博士：む？
カワイイ天使：春川くんって誰ですか？
ＳＡＮＡ：二人の中学の友達
ＳＡＮＡ：かなり仲が良いみたいだよ
ＳＡＮＡ：よくブログとかで出てくる魔道士とか観測者とか呼ばれてる人
ＳＡＮＡ：ちなみにあたしの永遠のライバル
博士：……あー、春川、なんと言う？
ＳＡＮＡ：えっと……
ＳＡＮＡ：確か、春樹だったかな
ＳＡＮＡ：蘭子ちゃんが言ってた気がする
カワイイ天使：蘭子さんのブログで凄く人気の人でしたね
カワイイ天使：色んな尾ひれが付いてましたけど
ＳＡＮＡ：付けてたのが蘭子ちゃん本人というのが一番面白かったけどね
ＳＡＮＡ：晶葉ちゃん？
博士：用事ができた
博士：ちひろさんはまだ事務所か？
ＳＡＮＡ：あ、今日は珍しく帰るみたいだよ

博士：家の場所は知らんな……
博士：明日朝一で向かうか
ＳＡＮＡ：なんでちひろさん？
博士：千川ちひろ
博士：旧姓は春川だ
カワイイ天使……偶然でしょう？
博士：幼馴染だ
ＳＡＮＡ：なんか……都合のいい推理ゲームみたいな展開だね
博士：言うな
博士：あの馬鹿は何をやっているんだと頭を抱えている途中なんだ

カワイイ洗脳中（前編）

どうしてこうなった。
俺は何かを間違えたのか。
だとしたらいつ、何を間違えた。
もしくはこれは必然的にそうなってしまう運命だったのか。
解らない。
この状況の意味がさっぱり解らない！

「聞いているんですか、ハルさん！　カワイイボクの話を流し聞きするなんて、ものすっごく勿体無いですよ！」
「あ、はい。すみません……」

姉貴の家に移ってから翌日のこと。

夏休みの惰眠を貪っている中、突如としてこのカワイイ生物が家にやってきた。
名前は既に知っている、今をときめくアイドル芸人、輿水幸子その人だ。
輿水幸子のテレビで見たときのインパクトはいまでも覚えている。豹に追われていたか、イグアナに追われていたか、虎に追われていたか、はたまた蛇に追われていたか。
とてつもない自信と、自身の一切を曲げない意志は俺でさえ凄いと思えるし、実物を目の前にして光栄だと感じることも出来る。
が、いま俺は彼女に長々とカワイイの定義を説かれていた。
「良いですか？　カワイイと言う言葉は一概に外見のことを表す言葉ではありません。性格や仕草、言葉遣いなども加味された全てを収束させ初めてカワイイと言われるんです」
「えぇ、はい……仰る通りで」
「ボクはもちろんカワイイの権化たる存在ですが、ボクに及ばないにしても蘭子さんも飛鳥さんもカワイイのですから、そんな二人を悲しませることはするべきではないと思います。違いますか？」
「はい……」
もう一度言う。
どうしてこうなった？

――

博士：ちひろさんと話がついた
博士：ハルの奴、火事で自宅が燃えてちひろさんの家に移り住んだようだ
博士：突然のことでスマホなども家の中だったようだな
カワイイ天使：なるほど、それで連絡できなかったと
博士：ちひろさんは二人がハルと知り合いだったことは知らなかったらしい
博士：ハルとはあまり仲が良くないみたいだ
カワイイ天使：む？
カワイイ天使：ですが晶葉さん
カワイイ天使：ハルさんは知っていたんですよね、二人がアイドルなこと
カワイイ天使：事務所なども知っていると思いますが
博士：だろうな
博士：しかしちひろさんは何も聞いていないらしい
カワイイ天使：どういうことです？
博士：さぁな

博士：まぁ火事に遭った後だ
博士：頭が真っ白になってもおかしくはないさ
博士：……あいつがそんな繊細だとは思わないが
カワイイ天使：……もしかして恋かもしれませんね
博士：は？
カワイイ天使：噛みました
カワイイ天使：故意です
博士：わざとだろう
カワイイ天使：かみまみた
博士：やっぱりわざとだろう
カワイイ天使：まぁそんなことは置いておいてください
カワイイ天使：もしかするとハルさんは故意にあの二人に伝えなかったのかもしれません
博士：理由が不明だな
カワイイ天使：そうですか？
カワイイ天使：今やあの二人はダークイルミネイトとして人気になってきました
カワイイ天使：まぁボクの方がカワイイでしょうが、あの二人も相当有名になってき

ています
博士：ふむ
博士：身を引いた、と言いたいのか？
カワイイ天使：あなた達から聞いたハルさんのイメージを基に考えたら、と言ったところですが
カワイイ天使：晶葉さんはまだハルさんにアイドルだと伝えてないんですよね？
博士：タイミングが掴めなくてな
博士：しかし確かに、あいつは要らない気遣いをするからな
博士：特に最近は蘭子と飛鳥にご執心だったようだ
カワイイ天使：二人にはもうハルさんのことは伝えましたか？
博士：あぁ、ＬＩＮＥでな
博士：今日の仕事が終われば目を通すだろう
カワイイ天使：ふむ、では今日しかありませんか……
博士：何をする気だ？
カワイイ天使：決まっています
カワイイ天使：ハルさんの真意を確かめるんです
カワイイ天使：もし何かしらの事情でさらに拗れてはいけませんから

博士……そうか
カワイイ天使：もちろんついて来てくれますよね！
博士：騙して悪いが仕事なんでな、ここで消えさせてもらおう
カワイイ天使：え”

ーーー

夏休みでの惰眠はなんと素晴らしいことか。
そして宿題が燃え果てたという事実がなお睡魔を増長させる。
あぁずっと寝ていたい。

ピンポーン

……いません。
僕はいません。
貝になりたい。

ピンポーン

やめてくれ。
そのチャイムは俺に効く、やめてくれ。
まったく人の睡眠を邪魔するなどけしからん不届き者だ。
昨日は遅くまで大惨事姉弟対戦をしていたというのに。

ピンポーン

まだ昼の一時だぞ。
こんな早い時間に来客するなど失礼ではないか。
そうとも、どうせここに家主はいないのだ。
そして俺がいることも知っているやつの方が少ない。
このまま寝ていれば帰ってくれるだろう。不在届ならポストにでも入れといてくれ。
あとで取りに行くから、姉貴が。

「春川春樹さーん、いませんかー？」

……は？
俺のことを知っている？
そして今の声どこかで……。
少しだけ覚醒した意識を窓に向ける。のそのそと這いずり、外を覗いてみた。
……何故だ。
何故、輿水幸子がいる。
そして何故俺を名指しで呼ぶ。
ていうか何故知っている。
ダメだ、謎が謎を呼ぶ。まるで長編ミステリーだ。このままじゃ埒があかない。
俺は気になってしまうと眠れなくなる性質なんだ。
「……仕方ない」
輿水幸子から話を聞こう。そして俺のことを知っているのと何故ここに来たかの理由を聞いてお帰り願おう。そうすればまた安眠できるのだから。
そうして俺は、玄関の扉を開けたのであった。
今では、少し後悔している。

「……え、えっとふぇすね、あの、蘭子さんと飛鳥さんがですね……その、えへへ」
「……うん」
「うひぃっ!?　す、すみませ……っ！」

俺を見るなり、輿水幸子さんは固まり、そして見るからに怯え出した。
俺の何がダメだったのか（夜更かし目付き）。
もう十分はこのまま立ち尽くしていた。外はいつも通りの夏の暑さ、二人とも汗を滝のように流し、いや輿水幸子さんは違う意味で汗を流しているような気もするが。
「それで、えっと……あのぉ……」
「……なぁ」
「ひゃい!?」
びくーん！　と気をつけをする彼女に、何か罪悪感を覚えながらも、俺は話を進める。
「とりあえず、外は暑いだろ。お茶出すから、入って話そう」
「え”」
「……別に外で話すんならそれでも良いけど、さすがにずっとこのままキョドられるの

も堪えるからな」

興水幸子……もう興水で良いか。興水はオドオドと目をバタフライさせながら、迷っているみたいだった。

まぁ当たり前だ。まったく知らない男と二人きりで過ごすと言うのも、アイドル関係なく女子としては嫌なことだろう。

そのまま帰ってくれ、そして俺をまた安眠させてくれ。

「えっと……じゃあ、お邪魔……します」

なんでぇ。

リビング。

使われた痕跡があまりない新品同様の長机に対面で座り、キンキンに冷えた犯罪的な麦茶を挟んでお互い無言で過ごす。

俺は興水の出方待ち。

興水はどうだか知らないが、麦茶をちょびちょびと飲んでいた。小動物さながらの仕草を前に、謎のほんわかとした空気が醸し出される。これがアイドルか。

しかしこのままでは話が終わらない。日が暮れてしまう。仕方なく、自分から会話を切り出すことにした。

「自己紹介をしよう。俺は春川春樹だ。中学二年、確か同い年だった、よな？」
「え、えぇ……はい。こ、ここ輿水幸子、ですはい。よろしくお願いします」
「……あのさ、多分俺が悪いんだろうけど、なんでそんなに怯えてるんだ？」
「いえその……ぼ、ボク、よくよく考えてみたら同年代の男の子とあんまり話したことがなくて……その、男性のイメージが、Ｐさんだけだったので……」
　なんでここに来たんだこの子。
　何がそこまで駆り立てるのか？
「そうか、じゃあ俺にはどうしようもないな。慣れてもらうしかない。んで、本題。二宮と神崎のことか？」
「……はい」
「連絡しなかったのは悪かったよ。姉貴にでも言えばよかった。俺のせいで二人に要らない心配をかけたのは謝る」
「えっと、じゃ、じゃあ疎遠になろうとしたわけじゃないと？」
「それは……」
　違う、とは言えなかった。
　その気持ちがなかった訳ではないから。
「……なぁ、輿水さん」

「は、はぁい！」
「俺みたいなやつがさ、友達続けても良いのかな」
「え、さ、さぁ……」
……。
今激しく、相談する人選を間違えた気がした。
「あのその、ボク男友達なんていないですし……そういうのちょっとよくわからないと言うか……」
この人なんでここに来たんだろう。
訳が分からないよ。
「でもその、あのですね……や、やっぱり、友達が減るのは悲しいと思う、んですけど……」
「……っ」
分かってた、つもりだった。
今はたくさん友達がいる？
たくさんのファンがいる？
だからって、あいつらが友達を失う悲しさや寂しさを忘れるわけがないはずなのに。
「……そう、だな。その通りだ」

「えぇっと……はい。と言う訳で、仲直りしましょう。だ、大丈夫です！　カワイイボクがちゃーんと仲直りを成功させてみせますから！」
「ははっ、頼もしいな。でも、それカワイイ関係あるか？」
「ん？」
「ん？」
「えっ？」
「えっ？」
「はい？　今なんと？」
「いや、仲直りするのにカワイイって関係あるかなって」
「正座です」
「えなんで」
「正座」
「はい」
　そして、冒頭に戻る。
　そんな地雷わかる訳ねえだろ。

最終回直前特別編　二年四組の学園祭

ーー中学４２期生総合裏掲示板１０２スレ目

２１７：名無しの生徒諸君　２０１７／１１／１４　２３：２５：４３　ＩＤ：６Ｇｎ ＶＥＲｊＪＵＸ

学園祭お疲れさまっしたー

２１８：名無しの生徒諸君　２０１７／１１／１４　２３：２８：４５　ＩＤ：ＯＦＬＳＲｚｊ８ｆＯ

お疲れー

２１９：名無しの生徒諸君　２０１７／１１／１４　２３：３２：２２　ＩＤ：Ｙ３ＫｃｉＨａｏｘｃ

おつー

２２０：名無しの生徒諸君　２０１７／１１／１４　２３：３５：２４　ＩＤ：ＢｚＦｋＶ９Ｙ０ＦＩ

乙

２２１：名無しの生徒諸君　２０１７／１１／１４　２３：４０：５９　ＩＤ：Ｗｙ

ＭｓＳｌｗｄａａ
今回は……すごかったな
２２２：名無しの生徒諸君　２０１７／１１／１４　２３：４４：１４　ＩＤ：２ＵＹｘＰ２ＧＺＱｏ
永久保存版だけど二度と見返したくないな
２２３：名無しの生徒諸君　２０１７／１１／１４　２３：４９：３１　ＩＤ：ＩＲＥｅＰＲＯｇＧＲ
今回ばかりは春川に同情したわ
２２４：名無しの生徒諸君　２０１７／１１／１４　２３：５５：０４　ＩＤ：ＰｇｈＹＩ９ＤＵｄ８
ノリノリだったじゃん
２２５：名無しの生徒諸君　２０１７／１１／１４　２３：５８：４８　ＩＤ：Ｏｇ９ｋｊＥＳＮｘＫ
＞＞２２４舞台上だけな。そのあと教室で一人黄昏てたの見たわ
２２６：名無しの生徒諸君　２０１７／１１／１５　０：０２：５６　ＩＤ：ＨＥＷｙｙｓｆＨｆＭ
＞＞２２５悲惨すぎる…

２２７：名無しの生徒諸君　２０１７／１１／１５　０：０７：５１　ＩＤ：ＷＰＺｏＯｓｆ９Ｑｘ

春川「闇の炎に抱かれて消えろ！（迫真）」

２２８：名無しの生徒諸君　２０１７／１１／１５　０：１３：１５　ＩＤ：ｆｅｆｒＲｉＭＦ７ｈ

＞＞２２７やめろ……もういい……っ……休め……！

２２９：名無しの生徒諸君　２０１７／１１／１５　０：１８：０７　ＩＤ：ＷｓｏＦｏ９ＴＭｈＱ

＞＞２２７あのシーン笑うとこなのに草も生えなかった

２３０：名無しの生徒諸君　２０１７／１１／１５　０：２１：４０　ＩＤ：ｈｚＤｒ２７ＨＢＳｙ

あのコピペはよ

２３１：名無しの生徒諸君　２０１７／１１／１５　０：２５：２３　ＩＤ：ｐＯＪ４ＡｒｌＺｄｅ

闇の帝王であり全世界を総る究極個体のＨＡＬが地球に現れて半年、地上のほとんどは荒廃し帝王の眷属である魔獣によって支配された。

ＨＡＬから地球を取り戻すため、人類軍によって組織された特殊魔装部隊『ター

ゲスアンブルフ』に所属する【白き処刑人】アスカと【黒き魔術師】ランコは、ついに本拠地である魔界要塞『ウーアシュプルング』へと潜入する。

幾多もの犠牲を払い、闇の帝王ＨＡＬと対面したアスカとランコは、魔装兵器【聖剣エクスカリバー】と【魔剣レーヴァテイン】を手に最終対決を始める――

２３２：名無しの生徒諸君　２０１７／１１／１５　０：２９：１３　ＩＤ：ｍｍＣＷＤｑｓＶＮｈ

＞＞２３１待ってた

２３３：名無しの生徒諸君　２０１７／１１／１５　０：３３：２７　ＩＤ：ＭＨｚ４ｎｕ８ｔｚｖ

＞＞２３１これだけの文なのにツッコミどころ満載すぎてどこに突っ込んでいいか迷う

２３４：名無しの生徒諸君　２０１７／１１／１５　０：３８：０４　ＩＤ：ＷａＶｆＫＵＷｏ０ｂ

結局何だったっけ。ラスボスが前文明の人類で、前文明を復活させるために新人類を滅ぼすって話だっけ？

２３５：名無しの生徒諸君　２０１７／１１／１５　０：４１：５４　ＩＤ：ｒＷｇｌＰＭｑ０ＯＩ

＞＞２３４そんな裏設定あったんか

２３６：名無しの生徒諸君　２０１７／１１／１５　０：４６：０３　ＩＤ：６ｈＭｅ４ｃｅｅＭｊ

＞＞２３４そう。んでラスボスは前文明の人類すべての魂を内包してるからほぼ不死身&強大な魔力を持ち歯が立たない。でもランコの最終奥義である『救済すべきは人の悪、全ての声《ゲベートリトゥアール》』で魂を浄化し、ＨＡＬの不死身性を無効化。ランコは力を使い果たし、アスカとＨＡＬの一騎打ちになる。

２３７：名無しの生徒諸君　２０１７／１１／１５　０：５２：０２　ＩＤ：６ｈＭｅ４ｃｅｅＭｊ

＞＞２３６続き

ＨＡＬの魔力は一人でも強大で全力を出せば地球を粉々にすることも容易（地球を我が物にするために無傷で手に入れたい）。一方アスカは魔法が使えず白兵戦のみに特化した戦士タイプ。ランコの装備である聖剣エクスカリバーを受け取り、二刀流でＨＡＬに到達するために駆け抜けていく。

現人類の祈りの声がアスカにステータス全バフを施し、さらには魔法無効というチートっぷりをかまし、ついにＨＡＬに剣が届くまでの距離まで肉薄。ＨＡＬは自身の魔装兵器【王剣デュランダル】を取り出し、激しい剣戟を行う。

２３８：名無しの生徒諸君　　２０１７／１１／１５　０：５５：３９　ＩＤ：６ｈＭｅ４ｃｅＭｊ
＞＞２３７続き
攻防の末、アスカは聖剣エクスカリバーと魔剣レーヴァテインを使った即席必殺技【無に解する魂の自刃《ゲミュートシュベールト》】を放ち、ＨＡＬを打ち倒す。
ボロボロの肉体でそれでも自身の文明を復興せんと立ち上がるＨＡＬの気に圧倒されたアスカはトドメをさせないでいたが、ランコと力を合わせ、ＨＡＬの魂を浄化させる。
ＨＡＬの消滅、そしてアスカとランコは行方をくらませ、世界が平和になったという独白の後、一人の旅人が街に訪れる。商人の男が旅人に何をしに来たのか尋ねると、春川が演じる別人なのかＨＡＬなのか不明な男が「友人がここのパンを食べたいと（ランコが好きなパン）腹を空かせて待っているんだ」と言って終わり。
２３９：名無しの生徒諸君　２０１７／１１／１５　１：００：５０　ＩＤ：２４ｍａｐＡ５ｆＧＥ
＞＞２３８今更だけど文化祭でやる内容じゃねえな
２４０：名無しの生徒諸君　２０１７／１１／１５　１：０６：３８　ＩＤ：ＦｌＭ

ＫＣｍｑＪｒｓ
>>２３８四組の奴らよくあれだけ演技上達したな
まぁ神崎さんとか二宮さんに教えてもらったんならそりゃ上手くもなるだろうが。
２４１：名無しの生徒諸君　２０１７／１１／１５　１：１２：３３　ＩＤ：Ｇ５３Ｒ６ｙｎｋｌｏ
>>２４０そりゃ練習したしめっちゃ
２４２：名無しの生徒諸君　２０１７／１１／１５　１：１８：１９　ＩＤ：Ｂｒｌ６ＺＩＬＮＯＥ
>>２４１お、四組か？
２４３：名無しの生徒諸君　２０１７／１１／１５　１：２２：５２　ＩＤ：Ｒ９Ｑ０２ＲＩｚｄｗ
春川毎日練習してたよな。だいたい神崎か二宮が指導してたし
２４４：名無しの生徒諸君　２０１７／１１／１５　１：２８：３５　ＩＤ：ＵａＷｊＱ４ＧｘＶｅ
>>２４３その過程でどっか壊れちゃったんだろうな……
２４５：名無しの生徒諸君　２０１７／１１／１５　１：３２：０３　ＩＤ：ｒＤＧＳｉｅＳｌｋＧ

（でもぶっちゃけ演技してた春川くんかっこよかったとは言えない）
２４６：名無しの生徒諸君　２０１７／１１／１５　１：３７：５４　ＩＤ：ｂｃＹＤＵＤｓ８Ｆｓ
＞＞２４５（わかる）
２４７：名無しの生徒諸君　２０１７／１１／１５　１：４１：４７　ＩＤ：ｒＤＧＳｉｅＳｌｋＧ
＞＞２４６（こいつ直接脳内に!?）
２４８：名無しの生徒諸君　２０１７／１１／１５　１：４７：２２　ＩＤ：ｌＷｊＲＷＡｓＬｄｒ
（ファミチキ食べたい）
２４９：名無しの生徒諸君　２０１７／１１／１５　１：５１：１３　ＩＤ：ｕｈＪＸＥＮｎｐ３ｍ
（揚げ鶏が至高とあれほど……）
２５０：名無しの生徒諸君　２０１７／１１／１５　１：５５：４２　ＩＤ：ＤＹＷＯ８ＩｍＪＳＯ
（Ｌチキが至高異論は認めない）
２５１：名無しの生徒諸君　２０１７／１１／１５　２：００：３４　ＩＤ：ｅｚＩ

ＹＧ２ＥＷｔＥ
＞＞２４５―２５０（念話使い多スギィ!!）
２５２：名無しの生徒諸君　２０１７／１１／１５　２：０４：０５　ＩＤ：ＲＯＳＹＺ５ＩＭｒＪ
＞＞２５１（お前もかよぉ!!）
２５３：名無しの生徒諸君　２０１７／１１／１５　２：０７：４０　ＩＤ：ｓｇ９Ｙｓ８ＺＹｈＯ
作中でも最後アスカとランコと過ごしている春川許さん
２５４：名無しの生徒諸君　２０１７／１１／１５　２：１１：１８　ＩＤ：ＲｂａａｏｉＩＨＡＬ
知るか
２５５：名無しの生徒諸君　２０１７／１１／１５　２：１５：１６　ＩＤ：ｌｓＩｍｉＨＲｎｋ０
明言はしてなかったし…
２５６：名無しの生徒諸君　２０１７／１１／１５　２：２１：０３　ＩＤ：ＡＳＫ２ＣｉＳ３ｑＬ
そんな言い訳立たないと思うけどね

―――

１／２のボク：とうとう明日だね
１／２のボク：準備は万端かい？
ハル：気が重い
ハル：胃が痛い
ブリュンヒルデ：そなたの努力は我々が保証しよう
ブリュンヒルデ：貴様は如何にも闇の帝王ＨＡＬであると！
１／２のボク：そうだね、ハルの努力はボクらが一番見て来たんだ
１／２のボク：キミならＨＡＬを全てを演じきれるだろう
ハル：そういう問題じゃねえ
ハル：絶対明日から俺もお前らの仲間入りする…
ハル：痛い奴を見る目で見られる…
ブリュンヒルデ：我が従者よ、その身はすでに我らが支配し紅へと染められている
ブリュンヒルデ：時はすでに遅い
１／２のボク：そうだね

１／２のボク：それもこれもキミの自業自得であるということを忘却しないように
ハル：分かってるよ…
ハル：やってやる、やってやるさ…
１／２のボク：その意気だよ闇の帝王ＨＡＬ
ブリュンヒルデ：我らで明日の饗宴を共に果たそうぞ！

ハル：…でもいざ決心したら今度は失敗しないか緊張して来た
ブリュンヒルデ：実は私も……
１／２のボク：ボクらはアイドルだからさらに失敗が目立つというね……

カラマス記念特別編　　ギフト

ブリュンヒルデ：我が従者よ
ブリュンヒルデ：その身に受けし呪いの解呪は進んでいるか？
ハル：おー……
ハル：なんとかＬＩＮＥを見れるくらいには回復した
１／２のボク：キミが風邪を引くなんてね
１／２のボク：世にも奇妙なことがあるもんだ
ハル：バカだって言いたいのか
ハル：これで俺もバカじゃないということが証明されたな
１／２のボク：バカは体調管理ができないから風邪を引く
１／２のボク：と、どこかの三女が言っていたね
ハル：どちらにせよ、俺はバカだと…
ブリュンヒルデ：従者よ
ブリュンヒルデ：解呪を早める媒体の供物は如何であるか

ハル：来ない方がいいぞ
ハル：お前らに風邪をうつしたらそれこそ殺される
ブリュンヒルデ：むぅ
１／２のボク：ボクらが喉でも壊したら歌姫としての立場も危うくなる
１／２のボク：だからお見舞いはやめた方がいいよ
ブリュンヒルデ：飛鳥ちゃんは今日あんなに心配そうにスマホ見てたのに？
１／２のボク：ｂｂａｓａ
１／２のボク：そんなことあるわけないだろう
ハル：なんだ飛鳥、心配してくれてたのか
１／２のボク：ふん
１／２のボク：キミはボクにとって親友だからね
１／２のボク：人として当然のことだろう？
ブリュンヒルデ：給食に出たゼリーをお見舞いに持って行くのはどうか聞いて来たのに
ハル：それはちょっと…
１／２のボク：ちが
１／２のボク：違う

１／２のボク：あれは
１／２のボク：そう
１／２のボク：今日の給食のゼリーが美味しくてね
１／２のボク：食べられないキミのために取っておこうと
１／２のボク：思ったんだ
ハル：などと供述しており
ブリュンヒルデ：我が前にて偽りの言葉は通用せぬ!!
１／２のボク：覚えてろ
１／２のボク：風邪が治ったら
ブリュンヒルデ：でも本当にお見舞いいいの？
ハル：まぁ
ハル：そうだな
ハル：お前らの元気な姿でも観てればそのうち治るよ
１／２のボク：今日はボクらはテレビに出ないよ
ハル：録画してあるの観てるし
１／２のボク：……恥ずかしいからあまり観ないでほしいのだが
１／２のボク：いや、アイドルが言っていい言葉じゃないな

ハル：私を見て!!と
1／2のボク：そこまでは言っていない!!
ブリュンヒルデ：分かった
ハル：？

ハル：おお……
ハル：これが噂の自撮り……
1／2のボク：撮るなら撮るって言ってくれ蘭子……
1／2のボク：変な顔になってたらどうするつもりだい
ブリュンヒルデ：映し絵はそなたをより美しく魅せるであろう！
ハル：ありがたやありがたや
1／2のボク：本人たちを目の前にその反応はいささか変態チックではないかい？
ハル：可愛く撮れてるぞ

ブリュンヒルデ：飛鳥ちゃん固まっちゃった

ハル：ストレートに限るな

僕らについて（後編）

その日の夕方。
輿水はカワイイを俺に伝授するだけすると満足したのか、最初のキョドりっぷりも嘘だったかのようにフフーン！　と凱旋していった。
「あれ……素だったんだな」
世の中には面白い人種がいるものだと感心して、すぐ近くに、今は遠くにいる二人を思い出す。あの二人より面白い人間はそうそういまい。
玄関前に座り込み、俺は深くため息をついた。
「……気持ち悪りぃ」
会いたい。
あの二人に、直に。
なんだって変なプライドで断捨離したものを今更惜しんでんだ。
いやー悪かった、スマホが燃えて連絡できなかったんだ。
お前らの仕事も忙しいと思ってな、あんまり心配させることもないと思って。

「……莫迦か」
バカはお前だ、何様のつもりだよ。
あの二人がお前のことをそこまで気にしてるとでも？
ちょっと調子崩して、あの輿水が大げさに言ってるだけだ。
仲間のことだ、少しの変化も見逃しちゃいられなかったんだろ。
「……それなら？」
それなら、気にすることはないさ。
お前のそのちっぽけなプライドのためにもう二人とは一緒にいない方がいい。
いつか必ず、自滅するに決まってる。
それでもーー

ピンポーン

「……遅かったな」
「遅かったのはキミだ。この前みたいに間に合わせる気すらなかったのか？」
「こ、今度ばかりは、許さないから！」
ドア越しから聞こえた声に苦笑しながら、扉を開ける。

そこにいた二人は、まぁ、予想通りの顔をしてたよ。

――

１／２のボク：殴る

ブリュンヒルデ：我が怨嗟は灼熱の業火を生み出し彼の者を焼き尽くすであろう

１／２のボク：彼に期待したのは間違いだった

１／２のボク：やはりボクたちから動くべきだったんだ

ブリュンヒルデ：左様

ブリュンヒルデ：我ら双翼の堕天使との約束を反故にした罪は重い

ブリュンヒルデ：その報いを思い知らしめてやらねば

１／２のボク：作戦会議だ

１／２のボク：あの愚か者を今度こそ縛り上げてやる

ブリュンヒルデ：囚人に魂の楔を！

――

さっきまで輿水と対面していた場所に、今度は神崎と二宮が座っている。

今日は来客の多い一日だ。掃除しといてよかったと心から思う。

「……」
「……」
「……あー、そのなんだすまなゴフッ!?」
謝ろうとしたら二宮から左ストレートの良いのを食らった。
「いやほんとすまばぐぅ!」
「こっちが本命だ」
本来右利きの二宮の右ストレート。
野郎……二段構えか。
二宮は俺を二発殴ってすっきりとしたのか、ストンと腰を下ろす。そして次に神崎が立ち上がった。俺のそばまで寄ると、俺のヒリヒリとする頬をそっと撫でーーそして平手打ちをかます。
「お、お前もか……」
「我らが怒りを思い知ったか?」
「はい……すみませんでした」
その言葉に満足したのか、神崎はふっと笑うとーーそのまま反対側もビンタした。
「何故ぇ!?」
「あ、飛鳥ちゃんも二回だったから……」

「当然の報いだよ。どうせならもう一発と行きたいところだ。今日は何故か、そう何故か、身体がもっと燃えろと鼓動を早めているからね」
ファイティングポーズを構える二宮にどうどうと手で抑えながら、俺は体勢を立て直し、そのまま二人に頭を下げる。
「……お前らから逃げた。すまん」
「……理由を聞いてもいいかい？」
「私たちのこと、もう付き合えないと思ったの……？」
違う、俺が、差を見せつけられて焦ったからだ。
そして二人の邪魔だけはしたくなかったんだ。
格好悪いから、惨めだったから。
アイドルとして見ていないと言ったのも、言えば意識をしてしまうから。
どれだけ目を逸らしても、彼女たちの輝きは無かった事にはできなかった。
「ボクらから逃げたいかい？」
ハッと息を飲み、二宮の方を向く。
二宮は意地の悪そうな、いやよくわからない。頬に赤みを帯びていて、恥ずかしそうで、それでいて妖艶さを醸し出している。
「何を……」

「キミが逃げたいなら、それでもいいさ。ただ勘違いしないでもらいたいがーー世界がキミの思い通りになると思うな」
　くっくっと意味ありげに笑いながら、二宮が片肘を机に置く。
「ボクらはキミと離れるつもりなんてないし、離れたくないんだ。だって数少ない、大切な友人、だからね。だからどれだけキミが逃げたいと、離れたいと思っても、ボクらはキミを逃がしはしないよ」
「貴様は我と契約せし従者である事を忘れるでないぞ。魂に刻み込まれている業（カルマ）は貴様を縛り付けている」
　ーー驚いた。
　まるで、自己中な奴に、お前自己中なんだよと言われた気分だ。
　そして俺は、思ったよりも随分と前に、深く二人と繋がっていたんだ。
「俺は……お前らと一緒にいても、いいんだろうか」
「愚問だね。キミがそんなことを考える繊細な奴だとは思わなかったよ」
「わ、私からもお願いします！　　い、いい一緒に、一緒に……いて、ください……」
　真剣に考えてたのが馬鹿みたいだ。
　思えば、そうだ。
　厨二病は、遠慮なんかしないんだ。

自分のやりたいことをして、反抗して、キャラを演じて、そしてーー友達が少ないんだ。

数少ない友達が減るのは、寂しいもんな。

「よし、じゃあ先ずはスマホを買い直すことだね。今から出られるかい？」

「未成年でも買い直せるのか？」

「下調べしてあるよ。大丈夫だそうだ。まぁ書類などは用意する必要があるけどね。これ、ちひろさんに書いてもらった親権者の同意書、免許証だ。借りてるものだから今日中に返さないと」

準備良すぎじゃない？

というか、姉貴にこの二人と知り合いなのがバレたのか……。

色々と覚悟する必要があるかもしれない。いやきっとある。

「我が従者よ。急ぐぞ」

「ちょ、待てって。腕引っ張んな。あと引っ付くな！」

「アポロンが姿を隠し、アルテミスが顕現するまでの刻限が迫ってきている。我の魔力でも抑えきれないほど強力である」

「兵は拙速を尊ぶ、だよ。ぐずぐずしてる暇はないんじゃないかな」

グイグイと引っ張る神崎に、その背中を押す二宮。

そしてそのまま強引に外へと引っ張り出され、ギリギリの時間で携帯会社で契約を交わし、あっさりと新しいスマホを用意した。
さすがに最新機種では無かったが。
帰るときにはすっかりと暮れてしまい、二人を女子寮へと送る。
その際色んな他のアイドルに見られたし、窓際でこっちに手を振る姉貴を見てゾッとしたが、ようやく忙しかった一日が終わった。
家に帰ってベッドに寝転び、スマホを見る。
データも何もかも消えたから、新しく登録し直した二人の繋がりの線。
そんな彼女らに送る、最初の言葉は、まぁこれしかない。

ーーー
ハル：ただいま
1／2のボク：おかえり
ブリュンヒルデ：闇に飲まれよ！

Ｓｔａｎｄ　ｂｙ　ｍｅ

１／２のボク：夏休みももうすぐ終わりを迎えるね
１／２のボク：今年はすごく短く感じるよ
ブリュンヒルデ：然り
ブリュンヒルデ：遣わされた使命と、グリモアから生み出される英知への門に続く難題
ブリュンヒルデ：流石の我も苦戦している
ハル：おい
１／２のボク：しかし確かにアイドルとしての仕事も学校の宿題も両立しなくちゃなんてのはかなり厳しいものがあるね
１／２のボク：僕はもう終わらせたけれど、蘭子、キミのはどうだい？
ブリュンヒルデ：抜かりはない
ブリュンヒルデ：時期に終焉を迎えるであろう
ハル：おいってば
１／２のボク：なんだい

ブリュンヒルデ：如何様か？

ーーー

「リアルで会ってるのに黙々とＬＩＮＥするこたねーだろ」

３４６事務所内部の休憩所。

俺たちは今そこに集まっていた。

建前としてはデスマーチ中の姉貴の着替えを持ってきた体で来たが、本当は二人に呼び出された。

「ふふふ。いやね、こうしてキミとこうやって会話するのもなんだか懐かしくてさ」

「いやいやいや、しなかったのほんの一日ふつかじゃねえか。しかもそれから毎夜の度に話してるし」

「むぅ、左様。これではいささか味気ないと思うが」

神崎も不満げにスマホを置く。その様子を見て二宮はふっと笑うと、いやニヤリと、か？　どちらにせよ意地の悪そうな笑みだ。

「うん、そうだ。でもそうだね。じゃあ本題に入ろうか」

その言葉を聞いた途端、神崎はビクンと跳ねる。驚いてそっちを向くと、露骨に俺か

ら目を逸らした。
「なんだよ、本題って」
「なに、今回の件でボクはキミに言っただろ？　キミがボクらから逃げたいと思っても、決して逃がさないって」
「……それが？」
「うん、だからね。キミに呪いを授けようと思ってね」
呪い？
また神崎絡みかと思って、神崎の方に目を向けると、信じられないくらいに顔を真っ赤にした神崎がそこにいた。
今まで揶揄うとムキになって顔を赤くしていた神崎だが、それに比喩にならないくらいになっている。
「いいかい？　蘭子」
「うううううううううううん。だだだだだだだいじょぶだいじょぶ……」
「大丈夫かこれ、壊れたＰＳ２使った時の嫌な止まり方してるけど」
「大丈夫だよ、問題ない」
「それは大丈夫じゃねえよ」
この神崎の取り乱しよう、呪いって一体なんなんだ？

嫌な予感しかしないぞ。
「……言っとくが無理難題は聞かんぞ」
「それはキミ次第だね。大丈夫、強制はしないから。キミがどれだけボクらを思っているかで無理難題かどうかは変わるだろう」
「マジで何させる気だよ……」
そう呟くと、二宮は三本の指を立てて、俺に突きつける。

「三つだ。三つ、ボクらの言うことを聞いてほしい」

「……なんでもは聞かねえぞ」
「そういう保険を掛けても構わないさ。言っただろう、強制はしない」
「う、うむ……であるぞ。無理強いはせぬ。ただ、その……出来るだけ叶えてくれると」
強制はしない。
もはやこれ自体が呪いの言葉だ。ズルイとさえ思う。こいつらを前に、この前の件を振り返って、断れるなんて出来るのか？
「……まぁ、聞くだけ聞くよ」
「その言葉が聞きたかった！」

……あ、これ二宮も緊張してるやつだ。神崎だけかと思ってたら、二宮も変なテンションになってやがる。
まぁもう、どうとでもなーれの精神だから覚悟は決めたけども。

「まず一つ、ボクたちと名前で呼び合うようにすること！」

「飛鳥、蘭子。これで良いのか？」
「ひうっ!?」
「き、キミに羞恥心は皆無のようだね」
嫌だって、別に……晶葉だって名前だし、紗南もそうだし。
特に今更気にする必要も……もっと酷いのを予想してたし……。
「で、ではそれでつ、次だ……」
「おいおい待てよ飛鳥、それは通らないぞ」
「うくっ、な、なんだい？」
立場的にはあちらが有利なのに、なぜか凄く上位にいる気分だ。
反撃するなら今しかない。
「俺が呼んだんだし、飛鳥も呼び合う仲と言ったじゃねえか。なぁ？　蘭子」

「う、ううむ。そ、そうで、ああるな……うむ」
「というわけで、はい。今度はお前らのターンだ」
「くっ、は、はる……」
「はるき……うぅぅじゅ、従者ぁ……」
勝ったな（謎）。
そのあと、結局のところ俺の名前が呼ばれることはなく、ＬＩＮＥネームのハルで妥協することになった。
まさか一時間かけても呼べないとは思わなかった。
コホンと仕切り直して。
「二個目、だ」
「お、おう……」
「文化祭で、ボクらと一緒に劇をすること」
「無理だ」
即答だった。頭で理解する前に本能で答えていた。
こいつらと劇？　正気か？

「……どうしてだい？」
「いや、普通に無理だろ。お前らがどんな劇するかもう分かるもん。ぜってー魔王とか悪魔とかそういうのが来るもん」
「帝王である！」
「変わらねえじゃねえか蘭子。いやいやマジで、しかもお前らプロと劇なんざ公開処刑も良いところだろ」
「ちゃんと、ボクらが付きっ切りで指導するよ。プロトレーナーには及ばないがそれなりには教えられる」
「左様。我々の持つペルソナは強固であり、自我を保つ能力である。その力が我らは常人に比べ遥か上を行くのだ」
　そりゃ中二病バリバリで現在進行形でキャラを演じてりゃそうもなるわ。
「まぁこれはお願いというより決定事項に近いんだけどね」
「はぁ？」
「文化祭で、ボクらは劇をすることに決めた。そしてその主役キャストにボクらを当てはめる。クラスのみんなも納得してくれているよ」
　そう言って掲げたスマホの画面にはクラスＬＩＮＥの画面が映し出されていて、飛鳥の言う通りクラスのみんなも乗り気だった。と言うかほとんどが俺に向けられた憐れ

みと嘲笑であったのは涙を禁じ得ない。

こいつ、前も思ったが前準備が良すぎる。根回しのプロかよ……。

「ボクはこれでも情報戦には自信があるんだ。中二病の力を舐めないでもらいたいね」

「あーはいはい……ったく、なにが強制しないだよ。思いっきりしてるじゃないか」

「別に強制はしてないよ。ただ、断れるものなら断ってみてくれとしか言えないけどね」

そう言ってニヤリと笑う飛鳥。

さっきの時間、もう少し虐めておけばと少し後悔した。

「み、三つ目！」

俺と飛鳥の睨み合いに不穏さを感じたのか、蘭子が慌てて三本の指を立てて俺たちの間に割り込んだ。

その瞬間、飛鳥も蘭子も顔を赤くして俯き始める。何故だか凄く迷っているようだ。

「……で、三つ目ってなんだよ」

「三つ目は、その……」

「えっと……うん、まぁそれはその……なに、まだ早いと言うか……」

「……えへへっ」

訳がわからん。

二人はギクシャクとしながら、一枚の紙を取り出してきた。

「なんだこれ」
「け、契約書である。魂の盟約に従いここにハ……従者の印を授けよ」
「どちらにもだよ、絶対。あ、あと……契約書なんだからあとで無しと言うのは禁止だ」
何の契約書なのか読み込んでみると、そこには一文だけが記されていた。

『もし私たちが三つ目のお願い事をした時必ず頷くこと』

「……えーと、つまり。保留、ってことか？」
「ち、違うっ。それは……その、まだ早いんだ」
「お願い事はもう決まってるから！」
ずいっと紙を差し出してきて、サインをしろと強請ってくる。
やはりこれのどこが強制しない、なのか。
まだ早い、願い事は決まっている……。
うむ、さっぱり分からん。
「……言っとくけど、無茶だけは言うなよ」
「……善処するよ」
「然り」

仕方なく、自分の名前を書く。
まぁ、もう劇もすることになったんだ。
これ以上怖いものなどありはしないだろう。
「ほら、書けたぞ」
「……うん。じゃあ」
「……六年後、まで待ってて」
最後、蘭子がなんて言ったのか。
俺はその時、きっと聞き耳ロールをファンブルしたに違いない。

「蘭子、ボクはもうハルに任せっきりにしないよ」

「うん。私も、だよ」
「これで魂の鎖の原型は出来上がった。完成まで六年。それまでに何とかして、ファンに認められるように努力しよう」
「大丈夫、だよ。きっと、私達なら、できるから」
「……三つ目のお願い事」
「それはーー」

ーーAnd darlin', stand by me.

Ｎｅｘｔ　ＳＴＡＧＥ！

博士：準備はできた
ハル……そうか
博士：本当にやるのか？
ハル：あぁ
ハル：見過ごしては置けない
博士：光のためか
ハル：それだけじゃない
ハル：あいつは今危険な状態なんだ
ハル：放って置けばどんな被害を生むかわからない
博士：そうだな
博士：それだけか？
ハル……実はちょっと楽しみでもある
博士：素直でよろしい
博士：では、研究所へ呼び出しておこう

ハル：俺もすぐ向かう

ーーーー→ＡＩラボ

「ねー、晶葉ちゃんこれなーにー？」

「うおっ、いたのか紗南……」

いつの間にか背後にいた紗南に驚きながらも、スマホの画面を見せないように隠しながら晶葉は後ろを振り向く。

紗南が持っているのは開発途中の発明品であった。

「それはウェブシューターもどきだよ。製品版を改造してより本物に近づけたんだ」

「ウェブシューターって……スパイダーマンの糸出すやつ？」

「あぁ。助手が発案してな。糸の強度や、それに伴う射出距離、速度……というかそもそも蜘蛛の糸もどきを作るのにかなり苦労したんだ。それでも原作に並ぶ理論値には達しなかったが」

「この手袋は？」

「一緒だよ。スパイダーマンの壁に上るというイメージをもとに作った。靴とマスクもあるんだが、あいにくスーツを作る時間がなくてな。今はそれだけ」

「ふーん……」

説明し終えて、晶葉は再度机に向かい、大至急で開発している発案品に取り掛かる。小手のような形状の手袋だ。

「あぁ、万が一にも腕にはめて掌にあるボタンは押すなよ、それをしたらーー」

ピッ！

不穏な音が響く。晶葉は恐る恐ると再び後ろの方へ振り向くと、紗南が引き攣った笑みを浮かべて、こちらを見ていた。

「……そ、それをしたら？」

「……キミがその装置を唯一使えるように登録され、それはキミのになる」

「そ、そそそして？」

「元々それは助手に授ける武器だったのだが、キミしかそれを使えないのなら、話は別だ」

「……つまり？」

「ーーおめでとう、君がスパイダーマンだ」

どちらかといえば、ガールだがね。と、最後に晶葉が締めくくった後、紗南の悲鳴がこだました。

程なくして、その場所に春川春樹ーーハルが到着する。
ハルがラボ内部に入れば、そこには悠々と空中を飛び跳ね行き来する紗南の姿があった。
「……ええ」
「おぉ、よく来たな助手よ。どうだ？」
「どうだじゃねーよ。どうすんだこれ……俺のウェブシューターじゃなくなってんじゃねえか」
「不慮の事故だ」
「あはははは！　すっごーいＶＲ以上だよこれ!!」
糸を出してターザンしたり、壁にひっついて登ったりと、まるで本当にスパイダーマンのようなことをしでかしている紗南に、ハルは羨ましげに見つめる。
「まぁいい、本命は？」
「もう出来てる。ほんの数分前にね」
晶葉に連れられ、ハルは机の前まで来る。そこには完成された手袋と、そしてーー円盤状の薄い盾があった。
「さすがにヴィブラニウム合金なんてのは、衝撃吸収をする金属など夢のまた夢だ。と、

私も思っていたが……」
「……菜々さんか」
「驚いたよ、まさか本当に……宇宙人だったとは」
ウサミン星人である安部菜々さんのツテで手に入れた特殊金属、それにはヴィブラニウム金属と同じ衝撃吸収の特性があるとされた。
その金属と鉄を合わせて作られた、仮称ヴィブラニウム合金を使い、作成された盾が、ここにある。
「保証しよう、これにはキャプテン・アメリカも満足する」
「使いこなせなければ意味がない、だろ？」
「その辺りは彼女に一任する。超人血清なんてそれこそ夢の話だ。人間科学は専門外だしね。それこそ志希さんに頼めばいいだろう」
「俺あの人苦手なんだよ……何考えてんのかさっぱりわからん」
「天才とはそういうものだ……私に合わせられるキミの方が不思議だね、私としては」
ハルが盾を手にする。見た目より軽く、そしてしっかりとした強度がある。
ガチャ、と扉の開く音がする。瞬間的に、ハルはその盾を、扉を開けた者に向け一回転してまで大きくまっすぐに投げた。
盾は、その者によって難なくキャッチされる。

「よぉ、遅かったな。……割と本気で投げたつもりだったが？」
「これくらいしなければ麗奈は止められないからな。ハル、ウェブシューターの出来は……」
「ん、光も来たの？　ってなにそれ！　キャップの盾!?」
天井から糸でぶら下がって降りて来た紗南が、光の持つ盾に驚く。
光も紗南がウェブシューターを使っているのに驚いていた。
「……晶葉のせいだ」
「すまん」
「……紗南を巻き込むのか？」
「麗奈を止めるんでしょ？　誤作動させちゃったアタシが悪いしね。頑張るよ！」
そう言って紗南はまたも糸を飛ばし跳び回っていた。その状態を見て光はため息を吐くと、机の上にある手袋を見つけ、それを左腕にはめる。
「ちゃんとくっつくのか？」
「会心の出来だ。ウェブシューターよりは難しくないしな」
「あぁ……俺のウェブシューター……摩天楼を跳び回りたかった」
「諦めろ」
項垂れるハルを尻目に、光は拳を深く握りスイッチを作動させる。すると盾は強い力

で腕に引っ張られ、硬くくっついた。
「……気分は？」
「いつだって正義のヒーローさ」

「麗奈、こんなことをしてもマトは喜ばないぞ」
「光い……アンタは、アタシの……マトの何がわかるってのよ！」

交錯する思い

「うわわ、あぶなっ。二人とも！　戦うんなら街に被害出さないでよ！」
「紗南！　子どもが下に!!」
「分かってるよ！」

正義と悪の戦い

「マトの遺産……遺していった想いで、アタシはアタシの正義を行う」
「そんなものは正義じゃない！」
「悪い奴を倒す、アンタのそれとどう違うって!?」

矛盾していく苦悩

そして……

「敵の目的はマトの発明だ。あいつら、マトの発明品を装備してやがる」
「ハル、勝てるのか……？」
「そのためにみんなが来た」

集結する、アイドルたちーー！

キャプテン・アイドル　　～ザ・ファースト・アベンジャー～
１０／０６

「なんでアメコミの装備なの？　仮面ライダーとか戦隊ヒーローとかでもよかったじゃん」
「アタシだってリボルケイン振り回したかったよ」
「無茶を言うな。あんなのほぼ大量破壊兵器だぞ。捕まるだろう」
「そこ？」

後日談

「ゼウス、これは一体如何なるアカシックレコードか？」
「父さん、教えてくれるかな」
休日の昼下がりーー娘二人が、不思議そうに一枚のＤＶＤを手渡してくる。
俺は片方の娘の言葉遣いにこめかみを抑えながら、そのディスクについてに思考を割いた。
表には何も書かれていない。真っ白なそれについて、俺は何も思いつかない。
「分からん。見てみるか？」
「エッチなものじゃないだろうね。子どもの前でそんなもの見せるなんて最低だよ」
「分からんって言ってるじゃないか。じゃあお前は見ないんだな」
そう意地悪を言うと、ムッとしたようにいつも不機嫌そうな口元がさらに下降する。
「そうは言ってないじゃないか。大人はいつも決めつけたがるね。これだから父さんはいつも母さんたちと喧嘩してるんだよ」
「すぐに仲直りしてるだろ？」

「知ってるんだぞ。いつもいつも父さんが母さんたちに何かしてご機嫌をとってるの。何してるか知らないけれど、あまり褒められたことじゃないな」
「お前も決めつけるじゃないか……何って言われてもな。ん、こっちに来な」
　ちょいちょいっと、手で招く。怪訝そうな顔で恐る恐ると近付いてきた娘を、そのまま抱っこし、その頭を撫でた。
「あー!!　ずるいずるいー!　我も、我も!!」
「あぁ後でな。ほら、どうだ?」
「むぅ……こんなことでボクの機嫌が取れるとでも?」
「ダメか?　じゃあ交代だな」
「……取れないとは言ってないじゃないか」
　ぎゅっと、降ろそうとした腕を掴む。
　全く、親に似て素直じゃない奴め。
「偉大なる王にして、えーと、聡明な賢将である我を忘れるでない!　次!　次私、わーたーしー!!」
「はいはい。ほら、代わってやれ」
「やれやれ、仕方ないな」
　さっそく交代する。すると、するすると抱っこではなく首の上に跨ってきた。

「我は巨人を従えしテイマーぞ！　こっちがいい！」
「あぁもう、肩が痛いってのに……よいしょーっと」
「ふはははははははは!!!　……は、は」
肩車で持ち上げると、威勢の良さが一転し、ブルブルと震えながら俺のおでこを辺りに抱きつき動かなくなる。
「どうした？」
「た、高い……怖いぃ……」
「あぁ……はいはい。ったく、お前も親に似て臆病な奴だな」
「私も抱っこ。抱っこがいい」
「はいよ」
一旦腰を下ろして、再度娘を腕で抱える。
先ほどの喧しさもなく、背中に手を回して眠るように落ち着いていた。
「……お父さんあったかぃ」
「お前は暑苦しい」
「むぅぅ……お父さんのいじわる」

「それで？　　これを入れればいいのかな？」
「ん、あぁ。まぁ見てみりゃわかるだろ」
「……ほんとにエッチな奴じゃないんだよね？」
「期待するなよ」
「期待なんかしていない!!」
むっつりめ。
娘がふんと鼻を鳴らし、少し乱暴にＤＶＤをデッキに入れ、再生ボタンを押した。
なにかのカメラ映像のようだった。誰かの録画映像か？
見覚えのある劇場。体育館のようだ。
待て。
おいこれは……。

『闇の炎に抱かれて消えろ!!』
「ぎゃああああああああああああああああああああああ!!!!!!!!!!」

すぐさま映像を消そうと動こうとするが、娘が抱きついているため上手くリモコンを取れなかった。そしてその隙に、もう一人の娘がニヤリとした表情でリモコンを掠めとる。

「これは、若かりしゼウスか？」

「おやおや、我らが偉大なるお父様がまさかこんなことをだなんてね。ははっ、あの暗幕はマント代わりかい？」

「うるせえ！　リモコン返せ！」

「あっはっは、そんな気の早いことを言わないでおくれ。もう少し鑑賞しようじゃないか」

そう言うと、娘は素早くリモコンから電池を抜き取り、意地悪くリモコンを俺の手が届く範囲にわざと置きやがった。

画面では、あの時の文化祭の劇が垂れ流されている。

何故だ。あの時の映像は全て焼き払ったはずだ。なのに何故あれが俺の家にある。

蘭子か？　飛鳥か？

あの二人が帰ってきたらとっちめなければ。

「わぁ、これはヘラか!?」
「母さんもいるようだね。なるほど、父さんと母さんたちは敵対していて、父さんは帝王なのか」
「やめろぉ……やめてくれぇ……」
黒歴史のフラッシュバック。
いやほんと、あの頃の記憶は消し去りたいのだ。
火事の件とか!!
「いいね、恐らく母さんにも効くだろう。これから面白くなりそうだ、ククク」
「あの聖剣と魔剣はなんだ!?　かっこいい!!」

蘭子。
飛鳥。
帰ってきたら、道づれだからな……。